

瀬戸内寂聴（晴美）著書目録(1)

増田 周子

本目録は、瀬戸内寂聴（晴美）の著書を、一、小説 二、随筆・評論 三、共著・対談 四、訳書 に分類し、発行年月日順に並べた。記載の順序は次の通りである。

書名
発行年月日名 発行所 判型 製本 頁数 定価 装丁者
名

§収録作品名
直接確認することのできなかった書物については書名の下に☆印を付した。

晴美という筆名の単行本については、書名の下に*印と付した。*印のないものは、寂聴名である。

頁数については、本文と目次の総計を記した。収録作品については、目次題名を採用した。

箱・カバーは管見に入っただけを記した。

判型のわからない不定形の書物については、縦×横で記した。単位はセンチメートルである。

本目録では、瀬戸内寂聴（晴美）の著書のうち、初版単行

本のみを扱った。しかし、同じ書名の本であっても、発行年月日、発行所の異なるものは、初版単行本としてあつかった。また、著書のうち、文庫本、著作集、個人選集、文学全集叢書類などは今回は省いた。現在活躍中の作家であり、今後も著書は増え続けられると思われる。それらを含めて稿を改めて発表したいと思う。

本目録作成にあたり、徳島県立図書館、徳島市立図書館、徳島大学附属図書館、国立国会図書館を利用させて頂きました。厚くお礼を申し上げます。

なお、この目録には、まだ未確認の著書もあり、脱漏もあるかと思われる。大方の御教示を御願ひする次第です。

一、小説

白い手袋の記憶*

一九五七年（昭和三二年）四月二〇日発行 朋文社 B6判
紙装 カバー オビ 二五一頁 二二〇円

§女子大生・曲愛玲／時をつくる雌雞／訶利帝母／牡丹／川風／痛い靴／吐蕃王妃記／塘沽貨物廠／白い手袋の記憶

花芯*

一九五八年（昭和三十三年）四月二〇日発行 三笠書房 四六判 厚紙装 二三〇頁 二六〇円（地方価・二七〇円） 装幀・阿部龍應

§花芯／聖衣／あとがき

迷える女*

一九五九年（昭和三十四年）四月一五日発行 小壺天書房 四六判 厚紙装 カバー 二五八頁 二八〇円 装幀・難波淳郎

§迷える女（美少年／三宅坂／惑いの年／樹氷／あいびき／嫉妬やつれ／不貞な貞女／ひめぐと／桜草夫人）

恋愛学校*

一九五九年（昭和三十四年）二月一〇日発行 東方社 一八・五×一二・五 厚紙装（背・クロス） 三〇七頁 三九〇円 装幀・阿部龍應

§恋愛学校（恋文騒動／ミスター燕の貞操／女の敵／尾ける／老女はロカビリーが大好き／男狩／森は見ていた／危険な感情／初恋の墓／お嬢さんさようなら／ヨットの乗せてきたもの／脱線見合い／千ヶ滝心中／パパの抵抗／ミス・火星コンテスト／第二の誕生）

恋愛学校☆

一九五九年（昭和三十四年）一月発行 講談社

その終りから*

一九六〇年（昭和三十五年）九月三〇日発行 浪速書房 一八・五×一二・五 厚紙装（背・クロス） カバー 四二二頁 三〇〇円 装幀・中島靖侃 題字・中根隆

§その終りから（走る雲／青い麦／ノラたち／暗い日曜日／淵／過去の影／青い椅子／華やかな暮色／血の声／拋物線／異形の花／期待／危険信号／冬の蝶／愛の指図／シグナルは黄／春愁）

花芯*

一九五九年（昭和三十五年）一〇月五日発行 三笠書房 B40判 紙装カバー 二三〇頁 定価一七〇円（地方価一七五円）

§花芯／聖衣／あとがき

田村俊子*

一九六一年（昭和三十六年）四月二〇日発行 文藝春秋新社 四六判 クロス装 箱 三四二頁 三五〇円 カット・谷内六郎

§写真／田村俊子（東慶寺／鶴／山道／炎／濃霧／豊橋行／白蟻／栄華／流離／田村俊子年譜）

花芯*

一九六三年（昭和三十八年）二月二五日発行 東方社 四六判 クロス装 箱 二四二頁 三二〇円 装幀・赤坂三好

§花芯／聖夜／ざくろ／牡丹／女子大生・曲愛玲

夏の終り*

一九六三年(昭和三八年)六月三〇日発行 新潮社 四六判
紙装 カバー 箱 二一八頁 三八〇円 装幀・川田幹
§あふれるもの／夏の終り／みれん／花冷え／雉子

女徳*

一九六三年(昭和三八年)二月二〇日発行 新潮社 一九・
二×一三 布装 三四八頁 四〇〇円 装幀・望月春江 題
簽・宇野雪村

§女徳(黒い蝶／秋の声／青い実／川の音／恋の荷／紅い
雪／夢の酔／日蔭の花／波の果／街の霧／双蝶／孤雁／昏い
湖／白い蛇／晩鐘／古い靴／思い川／木槿／深秋／火の鳥／
寂光／初姿)

BLUE DIAMOND*

一九六三年(昭和三八年)二月一〇日発行 講談社 四六
判 厚紙装 カバー 二四〇頁 三四〇円 装幀・高沢圭一
§いろ／夫の骨／完全な妻／通り魔／死面／驟雨／ブルーダ
イヤモンド

女海*

一九六四年(昭和三九年)二月二〇日再版発行 圭文館 一
八・五×一二・五 厚紙装(背・クロス) 四二一頁 三八
〇円 装幀・土井栄

§女の海(走る雲／青い麦／ノラたち／暗い日曜日／淵／過
去の影／青い椅子／華やかな暮色／血の声／拋物線／異形の
花／期待／危険信号／遠い草地／冬の蝶／愛の指図／シグナ

ルは黄／春愁)

妬心*

一九六四年(昭和三九年)六月三〇日発行 新潮社 四六判
厚紙装 箱 二三〇頁 三六〇円 装幀・妣田圭子

§霊柩車／焚死／帰らぬ人／盗む／けものの匂い／妬心／冬
映え／初出一覧

花野*

一九六四年(昭和三九年)九月一五日発行 文藝春秋新社 四
六判 厚紙装 上製カバー 二二二頁 三七〇円 装幀・竹
内宏一

§花野／女戒／三味線妻

女海ヘイストブックス*

一九六四年(昭和三九年)十一月一五日発行 東方社 四六
判 紙装 カバー 二七六頁 三〇〇円 装幀・御正伸
§女の海(走る雲／青い麦／ノラたち／暗い日曜日／淵／過
去の影／青い椅子／華やかな暮色／血の声／拋物線／異形の
花／期待／危険信号／遠い草地／冬の蝶／愛の指図／シグナ
ルは黄／春愁)

女優*

一九六四年(昭和三九年)二月二〇日発行 新潮社 四六
判 紙装 カバー オビ 箱 一二三〇円 装幀・竹谷富士
雄 題簽・宇野雪村

§女優(水の女／満ち潮／花の中／骨白く／未来花／赤いめ
だか／幻の街／夕顔／白い窓／見舞客／足指／氷中花／女

客／能面の女／廻り舞台／竹づくし／空蟬／螢／黎明／仮面／女豹／明暗／輪廻／男たち／闇路／断絃／流星／人魚／きずな／夜雨／吊いの花／夜の潮／遠山／根無草／港から／開幕前／黒髪）初出誌

輪舞＊

一九六五年（昭和四〇年）一月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 装幀・丹阿弥丹波子

§輪舞（第一話 情事の値／第二話 魔の季節／第三話 霧の妖精／第四話 名残りの恋／第五話 ダイアモンド・デイト／第六話 匂う部屋／第七話 宝石泥棒／第八話 強羅心中／第九話 身がわりの夜／第十話 はじめての落葉／第十一話 団欒／第十二話 まわり路）

かの子撩乱（ヘロマン・ブックス）＊

一九六五年（昭和四〇年）五月一五日発行 講談社 B 40判 布装 四〇五頁 九五〇円 装幀・岡本太郎 口絵写真・レイアウト・吉田幸子

§かの子撩乱（序章 墮天女／第一章 枯野／第二章 隕石／第三章 花あかり／第四章 向日葵／第五章 旅路／第六章 桃夭／第七章 なげき／第八章 煉獄／第九章 崖の花／第十章 波濤／第十一章 爛漫／第十二章 緑蔭／第十三章 鳥籠／第十四章 毬唄／第十五章 落葉／第十六章 桃源／第十七章 花道／第十八章 満願／第十九章 黄金の椅子／第二十章 やがて光が／第二十一章 いよよ華やぐ／第二十二章 薔薇塚／第二十三章 残照／第二十四章 誇

り）／年譜

妻たち（上）＊

一九六五年（昭和四〇年）五月二五日発行 新潮社 四六判 厚紙装 二七四頁 三六〇円 装幀・題簽・川田幹

§妻たち（上）（春雷／苺／紫陽花／黄薔薇／素足／宝石／曲がり角／サンガラス／遠花火／逆潮／スキヤンダル／誘惑／いのち／亀裂／落葉／ざくろ／浮雲／ななかまど／みずうみ／迷路）

妻たち（下）＊

一九六五年（昭和四〇年）八月五日発行 新潮社 四六判 厚紙装 二五一頁 三五〇円 装幀・川田幹

§妻たち（下）（東京の星／隣の灯／紫の爪／枯蓮／落陽／水仙／奇禍／みち草／青い魚／季節風／さざなみ／黒い服／母の椅子／返り花／仮面／品定め／水際／夏ふたたび／今日すぎて）

美は乱調にあり＊

一九六六年（昭和四一年）三月一日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 箱 二八五頁 四八〇円 装幀・朝倉撰

§美は乱調にあり

輪舞（ヘロマン・ブックス）＊

一九六六年（昭和四一年）三月五日発行 講談社 B 40判 紙装 カバー 一九九頁 二二〇円 装幀・丹阿弥丹波子

§輪舞（第一話 情事の値／第二話 魔の季節／第三話 霧の妖精／第四話 名残りの恋／第五話 ダイアモンド・デイ

ト／第六話 匂う部屋／第七話 宝石泥棒／第八話 強羅心中／第九話 身がわりの夜／第十話 はじめての落葉／第十一話 団欒／第十二話 まわり路)

誘惑者*

一九六六年(昭和四一年)四月二五日発行 講談社 四六判
厚紙装 二三五頁 三八〇円 装幀・市川泰 レイアウト・幸田幸子

§冬銀河／光子の朝／ころがわり／からっぽ／やどかり／声／淫蕩な処女／誘惑者

田村俊子*

一九六六年(昭和四一年)四月一五日発行 講談社 A5判
厚紙装 箱 三一〇頁 九二〇円 装幀・堀文子

§写真／田村俊子(東慶寺／鶴／山道／炎／濃霧／豊橋行／白蟻／栄華／流離／田村俊子補遺／紫の封筒／もう一人の女／父母)／田村俊子年譜

かの子撩乱*

一九六六年(昭和四一年)四月一五日発行 講談社 四六判
紙装 カバー 三一六頁 三四〇円 装幀・岡本太郎 口絵
写真・レイアウト・吉田幸子

§写真／かの子撩乱(序章 墮天女／第一章 枯野／第二章 隕石／第三章 花あかり／第四章 向日葵／第五章 旅路／第六章 桃夭／第七章 なげき／第八章 煉獄／第九章 崖の花／第十章 波濤／第十一章 爛漫／第十二章 緑蔭／第十三章 鳥籠／第十四章 毬唄／第十五章 落葉／第十六章

桃源／第十七章 花道／第十八章 満願／第十九章 黄金の椅子／第二十章 やがて光が／第二十一章 いよよ華やぐ／第二十二章 薔薇塚／第二十三章 残照／第二十四章 誇り／年譜

女の海へロマン・ブックス*

一九六六年(昭和四一年)五月五日発行 講談社 B40判 紙装 カバー 二六〇頁 二七〇円 装幀・村上豊

§女の海(走る雲／青い麦／ノラたち／暗い日曜日／淵／過去の影／青い椅子／華やかな暮色／血の声／抛物線／異形の花／期待／危険信号／遠い草地／冬の蝶／愛の指図／シグナルは黄／春愁)

愛にはじまる*

一九六六年(昭和四一年)六月一〇日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 箱 二五三頁 四五〇円 装幀・三岸黄太
§巴里祭／愛にはじまる／浮名もつけ／湖への旅／妖精参上／春の吊い／紅葉疲れ／歳月／旧友

美少年*

一九六六年(昭和四一年)六月二〇日発行 東方社 四六判 厚紙装 箱 オビ 二二六頁 三九〇円 装幀・赤坂三好
(美少年／不貞な貞女／あいびき／川風／嫉妬やつれ／ひめごと／痛い靴／桜草夫人／樹氷)

愛にはじまる*

一九六六年(昭和四一年)七月一日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 箱 二五三頁 四五〇円 装幀・三岸黄太

§ 巴里祭／愛にはじまる／浮名もつけ／湖への旅／妖精参上／春の吊い／紅葉疲れ／歲月／旧友

煩惱夢幻*

一九六六年（昭和四一年）九月二〇日発行 新潮社 四六判
布装 箱 二一八頁 三六〇円 装幀・桑田雅一

§ 煩惱夢幻（むらさき／こうばい／すおう／かきつばた／やまぶき／しおん／ききょう／おみなえし／あかね）

朝な朝な*

一九六六年（昭和四一年）一〇月二五日発行 講談社 四六判
厚紙装 カバー 二六四頁 三九〇円 装幀・風間完

§ 朝な朝な（使者／女の城／夫の背／昼の情事／新雪／迷路／春の雪／夫の恋／逆潮／激流／遮断機／浮雲／渦）

女箸*

一九六六年（昭和四一年）十一月二五日発行 東方社 四六判
紙装 カバー 二六六頁 三三〇円 装幀・吉田誠

§ 女箸（夜の椅子／男客／ある晴れた日に／女たらし／光子の朝／ネヴァモア／三角の部屋／星くず）

燃えながら*

一九六七年（昭和四二年）一月三〇日発行 講談社 四六判
厚紙装 カバー 二三九頁 三八〇円 装幀・村上豊

§ 燃えながら（午後の愁い／若い愛／青い花／妻の椅子／露草／女客／感傷旅行／人魚の恋／明暗／離愁／パリの夜／天上の花）

身がわりの夜へ瀬戸内晴美傑作シリーズ*

一九六七年（昭和四二年）六月二〇日発行 講談社 縦一八・〇×横二一・五 クロス装 二一四頁 三〇〇円 装画・川田幹 構成・吉田幸子

§ 再会／あいびき／妖精の季節／身がわりの夜／樹氷／恋の罫／ネヴァモア／冬銀河／いろ／はじめての落葉

死せる湖*

一九六七年（昭和四二年）七月二〇日発行 文藝春秋 四六判
厚紙装 箱 オビ 一九三頁 四〇〇円 装幀・野見山暁治

§ 死せる湖（序章 雪／第一章 死せる湖／第二章 昏い沖／第三章 終りなき塔）

恋愛学校へロマン・ブックス*

一九六七年（昭和四二年）八月四日発行 講談社 B40判 紙装 カバー 二一六頁 二四〇円 装幀・丹阿弥丹波子

§ 恋愛学校（恋文騒動／ミスター燕の貞操／女の敵／尾ける／老女はロカビリーが大好き／男狩／森は見ていた／危険な感情／初恋の墓／お嬢さんさようなら／ヨットの乗せてきたもの／脱線見合い／チケ滝心中／ミス・火星コンテスト／第二の誕生）

鬼の栖*

一九六七年（昭和四二年）九月五日発行 河出書房 四六判
布装 カバー 二五二頁 四五〇円 装幀・風間完

§ 鬼の栖

黄金の鋏*

一九六七年（昭和四二年）九月三〇日発行 新潮社 四六判
紙装 二六二頁 三五〇円 装幀・川田幹

§（龍燈祭／貴船／鎮魂／地獄ばやし／黄金の鋏）発表年月

女箸*

一九六七年（昭和四二年）一月二五日発行 東方社 四六判
紙装 カバー 二六六頁 三三〇円 装幀・吉田誠

§女箸（夜の椅子／男客／ある晴れた日に／女たらし／光子の朝／ネヴァモア／三角の部屋／星くず）

火の蛇*

一九六七年（昭和四二年）一月二八日発行 講談社 四六判
厚紙装 二六九頁 三八〇円 装画・村上豊 構成・池野徹

§火の蛇／ひいらぎ／鷗／秋扇／うつり紅／にんふえつと／廻り舞台

女の海☆

一九六八年（昭和四三年）一月発行 東方社

かの子撩乱ヘロマン・ブックス*

一九六八年（昭和四三年）一月八日発行 講談社 B 40判
紙装 カバー 三六七頁 三四〇円 装幀・岡本太郎

§かの子撩乱（序章 墮天女／第一章 枯野／第二章 隕石／第三章 花あかり／第四章 向日葵／第五章 旅路／第六章 桃夭／第七章 なげき／第八章 煉獄／第九章 崖の花／第十章 波濤／第十一章 爛漫／第十二章 緑蔭／第十三章 鳥籠／第十四章 毬唄／第十五章 落葉／第十六章

桃源／第十七章 花道／第十八章 満願／第十九章 黄金の椅子／第二十章 やがて光が／第二十一章 いよよ華やぐ／第二十二章 薔薇塚／第二十三章 残照／第二十四章 誇り／年譜

花野（自選傑作）〈新文学全書〉*

一九六八年（昭和四三年）二月一〇日発行 東方社 B 40判
二四六頁 二五〇円 紙装 カバー 装幀・吉田誠

§花野／女戒／三味線妻

情婦たち*

一九六八年（昭和四三年）二月二五日発行 新潮社 四六判
紙装 カバー 二四四頁 三七〇円 装幀・佐野繁次郎

§情婦たち（色ざんげ／ポピーは花ざかり／朱い窓／黄水仙／白炎／ステーキ／乾燥花／墓のある風景／白いさるすべり／還らぬ水／鏡の裏）

朝な朝なヘロマン・ブックス*

一九六八年（昭和四三年）四月四日発行 講談社 B 40判
紙装 カバー 二七三頁 二九〇円 装幀・風間完

§朝な朝な（使者／女の城／夫の背／昼の情事／新雪／迷路／春の雪／夫の恋／逆潮／激流／遮断機／浮雲／渦）

燃えながらヘロマン・ブックス*

一九六八年（昭和四三年）五月四日発行 講談社 B 40判
紙装 カバー 二四四頁 二六〇円 装幀・林永恵

§燃えながら（午後の愁い／若い愛／青い花／妻の椅子／露草／女客／感傷旅行／人魚の恋／明暗／離愁／パリの夜／天

上の花

夜の会話*

一九六八年（昭和四三年）五月二〇日発行 文藝春秋 四六判 紙装 二八六頁 四五〇円 装幀・堀文子

§夜の会話（鈴虫／木犀／穂薄／女友だち／ひめごと／舞姫／黒髪／灯かげ／傷ある魚／爪あと／匂い菫／青い実／禁園／暗い川／うそまこと／火の鳥／鏡の中／花群／黄薔薇／春泥／白い霧／青い島／恋の荷／男傘／壁の中／女客／夕顔／紫の部屋／仮面／薔薇宴／黒い蝶／声／菊の香／霧と流れ／篠笛／流星／湖へ／水の翳／幻の踊り／言いのこした言葉／火の柱／予感／宴の前）

彼女の夫たち*

一九六八年（昭和四三年）五月二八日発行 講談社 四六判 厚紙装 三八九頁 四五〇円 装幀・風間完

§彼女の夫たち（花と喪服／窓から窓へ／竹の春／水中花／陽照り雨／遮断機／昼月／風が……／虫籠／こもり沼／ざくろ／海の虹／島で／夫の靴／闇の花／野の仏／毬歌／道づれ／雪もよい／裏切りの辻／匂い菫／影絵／白い壁／出発／風のあと／野宮／流れ藻／通り雨／野苺／川の行方／初燕／星祭／わかれ雲／遠花火／炎と水／向日葵）

祇園女御*

一九六八年（昭和四三年）一〇月二八日発行 講談社 四六判 布装 四一四頁 五九〇円 装幀・桑田雅一

§祇園女御（その後の世に／花の雨／黒髪／藤波／夕月／青

嵐／夏野／露草／螢火／こもり沼／流浪の唄／篝火／花楓／おぼろ月夜／白檀／妖光／旅愁／明け星／十三夜／かえり花／かりがね／うもれ木／薄木／野の宮／晩花／朝虹／妬炎／登竜／満願／流水／胡蝶／花宴／匂玉／青芦／白鷺／月魂／鐘の声）

女箸*

一九六九年（昭和四四年）二月一日発行 東方社 四六判 紙装 二六六頁 三三〇円 装幀・吉田誠

§女箸（夜の椅子／男客／ある晴れた日に／女たらし／光子の朝／ネヴァモア／三角の部屋／星くず）

女箸*

一九六九年（昭和四四年）三月一五日発行 東方社 四六判 布装 二六六頁 三四〇円 装幀・赤坂三好

§女箸（夜の椅子／男客／ある晴れた日に／女たらし／光子の朝／ネヴァモア／三角の部屋／星くず）

妻と女の間 上*

一九六九年（昭和四四年）四月五日発行 毎日新聞社 四六判 厚紙装 カバー 四一二頁 四六〇円 装幀・栃折久美子

§妻と女の間（上）（女人高野／散華／女の椅子／カメオの顔／夫婦箸／窓と窓／土曜日の夜／紅鶴／誓い／影法師／朝の夢／青い靴／男友だち／秋風／恋の路／秘密／稲妻／かくれ家／明暗）

燃えながら ヘロマン・ブックス*

一九六八年(昭和四三年)五月四日発行 講談社 B 40判 紙装 カバー 二四四頁 二六〇円 装幀・林永恵

§燃えながら(午後の愁い/若い愛/青い花/妻の椅子/露草/女客/感傷旅行/人魚の恋/明暗/離愁/パリの夜/天上の花)

情事の配当 ヘロマン・ブックス*

一九六九年(昭和四四年)五月六日発行 講談社 B 40判 紙装 カバー オビ 二〇四頁 四四〇円 装幀・厚弘 装画・金井久美子

§情事の配当/女たらし/美少年/強羅心中/夜の椅子/驟雨/声/夫の骨/霧の妖精/光子の朝

妻と女の間 下*

一九六九年(昭和四四年)六月二五日発行 毎日新聞社 四六判 厚紙装 カバー 四三〇頁 四九〇円 装幀・枅折久美子

§妻と女の間(下)(落葉路/短日/赤い絹笠/白菊/風もないのに/昼月/朝の嘘/淡雪/茜雲/濁流/初霞/草枕/断崖/祈願/鏡と鏡/裏窓/迷い鳩/十三夜/笹舟/陽の道)

身代わりの夜 ヘロマン・ブックス*

一九六九年(昭和四四年)六月六日発行 講談社 B 40判 紙装 カバー 二〇三頁 二四〇円 装幀・堀文子

§再会/あいびき/妖精の季節/身がわりの夜/樹氷/恋の罨/ネヴァモア/冬銀河/いろ/はじめての落葉

お蝶夫人*

一九六九年(昭和四四年)七月四日発行 講談社 四六判 厚紙装 二五〇頁 四八〇円 装幀・画 桑田雅一

§お蝶夫人(小説 三浦環)(湖へ/うぐいす/自転車夫人/雨の夜/濡れ衣/夢の賭け/脱出/執着/栄光の道へ/海を渡る蝶/赤い爪/冬の旅)

嫉妬やつれ*

一九六九年(昭和四四年)七月四日発行 講談社 B 40判 紙装 カバー 二一七頁 二四〇円 装幀・堀文子

§嫉妬やつれ/淫蕩な処女/名残りの恋/ブルーダイヤモンド/三宅坂/からっぽ/ひめぐと/男客/魔の季節/川風

転落の歌 ヘロマン・ブックス*

一九六九年(昭和四四年)八月四日発行 講談社 B 40判 紙装 カバー 二二一頁 二四〇円 装幀・堀文子

§転落の歌/惑いの年/匂う部屋/やどかり/通り魔/宝石泥棒/誘惑者/ダイヤモンド・デイト/妻の放蕩

不貞な貞女 ヘロマン・ブックス*

一九六九年(昭和四四年)九月四日発行 講談社 B 40判 紙装 カバー 二〇四頁 二四〇円 装幀・堀文子

§不貞な貞女/三角の部屋/ところがわり/死面/情事の値/桜草夫人/まわり路/完全な面/ある晴れた日に/団欒 蘭を焼く*

一九六九年(昭和四四年)九月一〇日発行 講談社 四六判 布装 カバー 三二二頁 五四〇円 装幀・加山又造

§蘭を焼く／公園にて／予兆／ブイヨンの煮えるまで／うち
うみ／樹の幻／さざなみ／墓の見える道／発表年月

奈落に踊る＊

一九六九年（昭和四四年）二月一日発行 文藝春秋 四六
判 布装 二四七頁 五六〇円 装幀・織田廣喜

§奈落に踊る

彼女の夫たち(上)へロマン・ブックス＊

一九七〇年（昭和四五年）二月一六日発行 講談社 B40判
紙装 カバー 二二二頁 二七〇円 装幀・野見山暁治

§彼女の夫たち(上)（花と喪服／窓から窓へ／竹の春／水中
花／陽照り雨／遮断機／昼月／風が：／虫籠／こもり沼／ざ
くろ／海の虹／島で／夫の靴／闇の花／野の仏／毬歌／道づ
れ）

彼女の夫たち(下)へロマン・ブックス＊

一九七〇年（昭和四五年）二月一六日発行 講談社 B40判
紙装 カバー 二二九頁 二七〇円 装幀・野見山暁治

§彼女の夫たち(下)（雪もよい／裏切りの辻／匂い藁／影絵／
白い壁／出発／風のあと／野宮／流れ藻／通り雨／野苺／川
の行方／初燕／星祭／わかれ雲／遠花火／炎と水／向日葵）

遠い声＊

一九七〇年（昭和四五年）三月五日発行 新潮社 四六判
布装 二八四頁 四八〇円 装幀・駒井哲郎
§遠い声

祇園女御(上)へロマン・ブックス＊

一九七〇年（昭和四五年）三月二八日発行 講談社 B40判
紙装 カバー 二二六頁 三〇〇円 装幀・桑田雅一

§祇園女御(上)（その後の世に／花の雨／黒髪／藤波／夕月／
青嵐／夏野／露草／螢火／こもり沼／流浪の唄／篝火／花
楓／おぼろ月夜／白檀／妖光／旅愁／明け星／十三夜）

祇園女御(下)へロマン・ブックス＊

一九七〇年（昭和四五年）三月二八日発行 講談社 B40判
紙装 カバー 二二六頁 三〇〇円 装幀・桑田雅一

§祇園女御(下)（かえり花／かりがね／うもれ木／薄木／野の
宮／晩花／朝虹／妬炎／登竜／満願／流水／胡蝶／花宴／句
玉／青芦／白鷺／月魂／鐘の声）

火の蛇＊

一九七〇年（昭和四五年）七月四日発行 講談社 B40判
紙装 カバー 二六四頁 三〇〇円 装幀・古沢岩美
§火の蛇／ひいらぎ／鷗／秋扇／うつり紅／にんふえつと／
廻り舞台

女優へロマン・ブックス＊

一九七〇年（昭和四五年）二月二一日発行 講談社 B40
判 紙装 カバー 二五八頁 三三〇円 装幀・堀文子

§女優（水の水／満ち潮／花の中／骨白く／未来花／赤いめ
だか／幻の街／夕顔／白い窓／見舞客／足指／氷中花／女
客／能面の女／廻り舞台／竹づくし／空蟬／螢／黎明／仮
面／女豹／明暗／輪廻／男たち／闇路／断絃／流星／人魚／

きずな／夜雨／吊いの花／夜の潮／遠山／根無草／港から／開幕前／黒髪)

恋川*

一九七一年(昭和四六年)五月三〇日発行 毎日新聞社 四六判 厚紙装 カバー 三三九頁 六二〇円 装幀・芹沢銈介

§恋川(恋の重荷／梅屋敷／朱い耳／雪持笹／初菊／霜月／銀河／蛍の夢／ほつれ毛／引窓／高砂／わかれ道／満願／蝶の影／夕霧／花えらび／道行／緋牡丹／片えくぼ／秋海棠／五月雨／浅い夢／実と花／大川端／きずな／狐火／坂道／妬炎／恋盲／黒い蝶／流浪／曲り角／恩讐の果て／ぬれぎぬ／炎の花／流れ藻／朝焼け／前夜祭／猷華／女ごころ／影の人／陽の人／夜の雪／竹林の風／桂川／俄雨／夢の女／道づれ／人形の泪／露草／黄色の花／風の声)

薔薇館*

一九七一年(昭和四六年)二月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー 二二七頁 四五〇円 装幀・山本美智代写真・渡辺眸

§薔薇館(めぐりあい／花の散る道／黒い夢／夜の海／秘密／乱れ雲／海鳴／夢ふたたび／毒の沼／遠い春／心変り／池の月／若い獣／砂の城／折れ葦／遠い火事／迷い鳥／聖夜／悪夢／玉かずら／秋篠／消えた虹／告白／薔薇の碑銘)

おだやかな部屋*

一九七一年(昭和四六年)二月二七日発行 河出書房新社

布装 箱 二一八頁 六五〇円 装幀・近藤弘明

§おだやかな部屋

ゆきてかえらぬ*

一九七一年(昭和四六年)六月二〇日発行 文藝春秋 四六判 布装 カバー 二五四頁 六〇〇円 装幀・藤田吉香
§ゆきてかえらぬ／三鷹下連雀／霧の花 夢二秘帖／春への旅／鴛鴦／あとがき

純愛*

一九七一年(昭和四六年)六月二八日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー オビ 三五四頁 七九〇円 装幀・枅折久美子

§純愛(女讃歌／青い風／道しるべ／巢ごもり／夜に／白い時間／夜の雨／夢の虹／がんばり／花／夜曲／寒い獣／いけにえ／鳥籠／妻たち／稲妻／へりオトロープ／赤い薬罐／夜の蛾／回転扉／寒椿／坂道／雪折れ／香華／うず潮／岸辺に／挑戦／雨雲／花吹雪／瞳の中／別れ話／決意／残されたもの)

輪環*

一九七一年(昭和四六年)十一月二五日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 カバー オビ 三二三頁 六〇〇円 装幀・村上芳正

§輪環(街角に／風の中／雪の記憶／旅の女／帰ってきた女／匂う部屋／挑戦／シェリー／女客／硝子の城)

みじかい旅*

一九七二年（昭和四七年）三月一五日発行 文藝春秋 四六判 布装 カバー オビ 二七〇頁 五九〇円 装幀・加山又造

§みじかい旅（冬の虹／淡い雪／花屏風／春愁／みじかい旅／花酔い／藤波／空蟬／迷い路／やがてくるもの／道づれ／別れ櫛）

余白の春*

一九七二年（昭和四七年）六月三〇日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 カバー 三一四頁 六〇〇円 表紙絵及びカット・藤松博 ブック・デザイン・小池玲子

§余白の春

美女伝*

一九七二年（昭和四七年）一〇月八日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー 二六六頁 五五〇円 装幀・小高辰也

§美女伝（光明皇后／姐妃のお百／嬌妓お鯉／酒井米子／額田女王／道綱の母／妖女・宮田文子／モルガンお雪／管野須賀子／岡田嘉子／三浦環）／掲載誌名

京まんだら 上*

一九七二年（昭和四七年）十一月一六日発行 講談社 四六判 クロス装 カバー 四二五頁 一二〇〇円 造本・杉浦康平

§京まんだら上（浄夜／坂道／野の宮／川のほとり／冬としび／寒月／花は紅／娘たち／浮草／花と燈／砂時計／孔

雀／別れ霜／塀の青草／辻地蔵／十三夜／悲願）

※一三版による

京まんだら 下*

一九七二年（昭和四七年）十一月一六日発行 講談社 四六判 クロス装 カバー 四四九頁 七二〇円 造本・杉浦康平

§京まんだら下（島へ／美しいもの／佗助／赤絵／千羽鶴／舞衣／若葉かげ／葵祭／紫陽花／夏雲／祇園ばやし／夏たけて／無言まいり／大文字／秋扇／満願／東山）

田村俊子〈新装版〉*

一九七三年（昭和四八年）二月五日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 三四二頁 一三〇〇円 カバー・表紙・扉の題字・司修 表紙の文字・田村俊子の自署

§田村俊子（東慶寺／鶴／山道／炎／濃霧／豊橋行／白蟻／栄華／流離／田村俊子年譜）

中世炎上*

一九七三年（昭和四八年）三月三〇日発行 朝日新聞社 四六判 クロス装 カバー 三七二頁 装幀・本文構成・杉浦康平 本文挿画・宮田雅之

§中世炎上（新枕の女／雪から花へ／初鶯／墨染桜／おだまき／かば桜／春おぼろ／夢のなごり／おもかげ／輪廻／鴛鴦／秋風／途上／煩惱無限）／著者のことば

妻と女の間 上〈愛蔵版〉*

一九七三年（昭和四八年）二月二五日発行 毎日新聞社

四六判 布装 箱 オビ 四一二頁 一二〇〇円 装幀・杉浦康平・海保透

§妻と女の間 (女人高野／散華／女の椅子／カメオの顔／夫婦箸／窓と窓／土曜日の夜／紅鶴／誓い／影法師／朝の夢／青い靴／男友だち／秋風／恋の路／秘密／稲妻／かくれ家／明暗)

妻と女の間 下〈愛蔵版〉*

一九七三年 (昭和四八年) 二月二五日発行 毎日新聞社
四六判 布装 箱 オビ 四三〇頁 一二〇〇円 装幀・杉浦康平・海保透

§落葉路／短日／赤い絹笠／白菊／風もないのに／昼月／朝の嘘／淡雪／茜雲／濁流／初霞／草枕／断崖／祈願／鏡と鏡／裏窓／迷い鳩／十三夜／笹舟／陽の道

いずこよりへ自伝小説*

一九七四年 (昭和四九年) 一月五日発行 筑摩書房 四六判
紙装 カバー 三五〇頁 九五〇円

§いずこより (写真／第一章／第五章)

吊橋のある駅*

一九七四年 (昭和四九年) 四月二〇日発行 河出書房新社
四六判 厚紙装 カバー オビ 三三八頁 一二〇〇円 造本・杉浦康平・海保透

§吊橋のある駅／線路ぞい／こういう朝を／影のない中庭／悲鳴／坂道／ふたりひとり／地図／石路(つわぶき)／いきもの／初出一覧

終りの旅*

一九七四年 (昭和四九年) 四月二五日発行 平凡社 四六判
布装 二三〇頁 定価不明 装幀・杉浦康平・海保透

§終りの旅 (夢の中で／地図を往く／鐘の鳴る町／軌跡／岬へ／幻の水の街／海への道／蒼い真珠／トレッド／朝市の占い師／旅の終り／ロマンティック街道／ふるさとの風／幽会／ルルドのマリア)

色徳 上巻*

一九七四年 (昭和四九年) 九月一五日発行 新潮社 四六判
厚紙装 カバー 三三六頁 八八〇円 装幀・高山辰雄 挿画・風間完

§色徳上巻 (空や寂や／通天橋／高瀬川／見舞客／つくも髪／藤むらさき／色くらべ／鶏鳴／落花／連翹／寒紅／つわぶき／星座／牡丹／星の道)

色徳 下巻*

一九七四年 (昭和四九年) 九月一五日発行 新潮社 四六判
厚紙装 三二九頁 八八〇円 装幀・高山辰雄 挿画・風間完

§色徳下巻 (鬼薊／乱菊／百合／万緑／昼の虹／杏の花／昨日の風／行雲／辻公園／空華)

抱擁*

一九七四年 (昭和四九年) 一〇月三〇日発行 文藝春秋 四六判
クロス装 三〇六頁 一三〇〇円 装幀素材・入江泰吉撮影・法隆寺橋夫人念持仏厨子蓮池文様

§抱擁(序／一／四)

薔薇館へロマン・ブックス*

一九七五年(昭和五〇年) 一月二日発行 講談社 B 40判
紙装 カバー 二二八頁 四四〇円 装幀・原弘 装画・磯野宏夫

§薔薇館(めぐりあい／花の散る道／黒い夢／夜の海／秘密／乱れ雲／海鳴／夢ふたたび／毒の沼／遠い春／心変り／池の月／若い獣／砂の城／折れ葦／遠い火事／迷い鳥／聖夜／玉かずら／秋篠／消えた虹／告白／薔薇の碑銘)

戯曲かの子療乱*

一九七五年(昭和五〇年) 一月一日発行 冬樹社 厚紙装
カバー 一八六頁 九八〇円 装幀・三嶋典束

§戯曲 かの子療乱(第一幕／第四幕)／かの子年譜

純愛へロマン・ブックス*

一九七五年(昭和五〇年) 四月二五日発行 講談社 B 40判
紙装 カバー 三九九頁 六二〇円 装幀・原弘 装画・磯野宏夫

§純愛(女讃歌／青い風／道しるべ／巣ごもり／夜に／白い時間／夜の雨／夢の虹／がんばり／花／夜曲／寒い獣／いけにえ／鳥籠／妻たち／稲妻／へりオトロープ／赤い葉罐／夜の蛾／回転扉／寒椿／坂道／雪折れ／香華／うず潮／岸辺に挑戦／雨雲／花吹雪／瞳の中／別れ話／決意／残されたもの)

蜜と毒*

一九七五年(昭和五〇年) 一二月八日発行 講談社 B 40判

紙装 カバー 三三四頁 六〇〇円 装幀・原弘 装画・佐々木豊

§蜜と毒(砂の城／止まった時間／年上の女／赤い部屋／草いちご／弦月／秋雲／逆波／目には目を／旅の終り／雅歌)

幻花(上)*

一九七六年(昭和五一年) 一月三〇日発行 河出書房新社
四六判 厚紙装 カバー 三一五頁 八八〇円 装幀・横尾忠則

§幻花(上)(月宴／千草／菊枕／炎／渦／風絞／白椿／緋桜／春燈／風神／銀河／野ざらし／火宅／真如／花争い／湖)

※三版による

幻花(下)*

一九七六年(昭和五一年) 一月三〇日発行 河出書房新社
四六判 厚紙装 カバー 三二四頁 八八〇円 装幀・横尾忠則

§幻花(下)(緋と黒／凶鳥／逆浪／緑蔭／妖星／紅緑／有縁／沙羅／焼野／砧／乱雲／薫風／火竜／虚空／残照／夢の世)

※三版による

冬の樹*

一九七六年(昭和五一年) 六月一〇日発行 中央公論社 四
六判 厚紙装 箱 三三四頁 一二〇〇円 装本・加納光於
§冬の樹(形代／耳／かわはぎ／横川／秘密／味方／うらら

かな日／口紅／菜種梅雨／いつか朝に——／同窓会／嵐／消えた針／木犀／後書き)

祇園の男*

一九七八年(昭和五三年)一月二五日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 カバー 二二六頁 八八〇円 装画・装幀・村上芳正

§祇園の男／疑うことを学べ／雁の便り／風の登跡／魚のなみだ／収録作品初出誌一覧

まどう 上巻*

一九七八年(昭和五三年)五月三〇日発行 新潮社 四六判 布装 カバー 二四七頁 一〇五〇円 装幀・高山辰雄

§まどう上巻(魔訪う／栗の実／われもこう／曼珠沙華／わかれ枝／さざんか／萩もみじ／昼月／寒椿／冬の星／木枯し／新雪／紅梅／初音／流雛／遺書／花がたみ／椿垣／人工滝)

※六版による

まどう 下巻*

一九七八年(昭和五三年)六月一〇日発行 新潮社 四六判 布装 カバー 二五二頁 一〇五〇円 装幀・高山辰雄

§まどう下巻(淵の雲／翡翠／都忘れ／ほととぎす／五月雨／銀河／日照り／ほおずき／夏帯／雷雨／炎道／さるすべり／獅子座／残照／鈴虫／コスモス／かくれ里／夜寒／冬の道)

※一八版による

かの子撩乱その後*

一九七八年(昭和五三年)七月二九日発行 冬樹社 四六判 厚紙装 カバー 二三四頁 九五〇円 装幀・杉浦康平・海保透

§写真／かの子撩乱その後(I 岡本かの子伝／II 大貫晶川ノート／堀切茂雄ノート／藤田啾湊のこと／かの子と仏教とわたし／III かの子の歌／一平全集の語るもの／これがポイント／ある文学碑／はじめての戯曲／恋の始末／風もなきに／法事撩乱／永遠の命)

草宴*

一九七八年(昭和五三年)十一月一四日発行 講談社 四六判 布装 カバー 三〇四頁 九八〇円 装幀・平井準

§草宴(一―十二)

花火*

一九七九年(昭和五四年)四月二五日発行 作品社 四六判 厚紙装 カバー 二一六頁 九八〇円 撮影・寺島彰由 装丁・菊地信義

§秋の客／虚鈴／花火／愛の裏／怪談／木の手／えりあし／鬼／蛇／初出誌一覧

古都旅情*

一九七九年(昭和五四年)五月一五日発行 平凡社 菊判 厚紙装 カバー 二九六頁 一三〇〇円 装画・風間完 造本・杉浦康平

§古都旅情(美女の墓／嵐山／上賀茂の社／六波羅界限／西

山夕月／鳥戸野陵／比叡山／さざなみの志賀の都／冬の湖／鬼のいる寺／北野天満宮／二月堂お水取り／炎の舞 続・二月堂お水取り／吉野山新緑／中辺路万緑／丹波亀岡／修学院周辺／祇園・建仁寺

比叡*

一九七九年（昭和五四年）九月二〇日発行 新潮社 四六判 布装 箱 カバー 二四四頁 一五〇〇円 装画・加山又造 §第一章／第八章／『比叡』附録（情熱の行方）『比叡』をめぐる―へ対談・瀬戸内晴美・秋山駿

古都旅情「装画本」*

一九七九年（昭和五四年）一〇月二〇日発行 平凡社 A5 判 厚紙装 箱 二九六頁 四八〇〇円 装画・風間完 造 本・杉浦康平 題字・宇野雪村

§古都旅情（美女の墓／嵐山／上賀茂の社／六波羅界隈／西山夕月／鳥戸野陵／比叡山／さざなみの志賀の都／冬の湖／鬼のいる寺／北野天満宮／二月堂お水取り／炎の舞 続・二月堂お水取り／吉野山新緑／中辺路万緑／丹波亀岡／修学院周辺／祇園・建仁寺）

花情*

一九八〇年（昭和五五年）一月一〇日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 カバー 二八六頁 九八〇円 装幀・柄澤斎 原画・加山又造（「草月」連載時の装画）

§冬薔薇／梅／鬱金桜／罌粟／桔梗／女郎花／柊／しだれ桜／石楠花／てっせん／曼珠沙華／枯蓮／水仙／沈丁花／ラ

イラック／初出誌

こころ（上）*

一九八〇年（昭和五五年）二月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 三二五頁 九五〇円 装画・猪熊弦一郎 装幀・山岸義明

§こころ上（秋風／こおろぎ／ざくろ／枯むぐら／冬銀河／木の実／陽だまり／ともしび／初雪／冬菫／微笑／同行／舟唄／風の宮殿／春の雪／旅路／白夜）

こころ（下）*

一九八〇年（昭和五五年）二月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 三三〇頁 九五〇円 装画・猪熊弦一郎 装幀・山岸義明

§こころ下（入江／水脈／新樹／南風／めぐりあい／青い頁／螢川／よしの／異邦人／さるすべり／向日葵／ひぐらし／鈴虫／花束／潮騒／風の声）

小さい僧の物語・地蔵説話へ平凡社・名作文庫*

一九八〇年（昭和五五年）三月一〇日発行 平凡社 一五・五×二〇・五 二二二頁 一三〇〇円 表紙・扉絵・秋野不矩 装丁・上野球

§はじめに／小さい僧の物語―説話の中の十七話（はきだめ地蔵／隣のじいさま／笠地蔵／かす地蔵／亀を助けた男／絹をくれた地蔵さま／伊豆の生き地蔵／生きかえった蔵満／夫を地獄から助けた尼／六地蔵を造った神主／矢を負った身代わり地蔵／にぎりめしを食べた石地蔵／雪の下から助けられ

た男／もみ地蔵／忘れた錫杖／疫病神を追っぱらったこと／
提婆の太兵衛／石童丸／善光寺の親子地蔵／山椒太夫／安
寿と厨子王を守った地蔵さま／寂庵の地蔵盆／賽の河原地蔵
和讃——「おわりに」にかえて

幸福*

一九八〇年(昭和五五年)五月二〇日発行 講談社 四六判
クロス装 カバー 一九〇頁 八九〇円 装画・吉浦摩耶

装幀・秋山法子

§みみらく／幸福／雞／声／再会／失踪／揺れる部屋／坂道
で／初出掲載誌

嵯峨野日記(上)*

一九八〇年(昭和五五年)一〇月二〇日発行 新潮社 四六
判 布装 上製カバー オビ 二二六頁 一〇〇〇円 装
幀・挿画・横尾忠則

§嵯峨野日記上(I利休の首／木曾の文学寺／花へのいざな
い／螢／雨の声／「舞ひ姫」／花と風鈴／あたご千日詣り／送
り火のあと／諧調は偽りである／虫しぐれ／善光寺詣り／II
墓の表情／曼珠沙華など／秋のわかれ／女の呼吸／美しい女
と着物／永平寺の秋／良書と妄念／ひとつの青春／石路の
花／寂聴秋色／「貧苦菩薩」と「花びら」／寒村翁と京都／歌
右衛門丈の素顔／終い弘法さん／III冬蕭条／埴輪乙女と赤い
花／雪／「死出の道艸」／文明よ驕るなかれ／雪と香袋／モラ
エス、治郎八／少女の頃と中原淳一／わが友、安田南／お水
取り／IV花の種／護美の会／花と鶯／地獄の表情／女である

こと／「或る夜の出来事」／えんま堂狂言／誕生日／女嚴窟
王／愉しい本／仏頭華／梅雨の晴れ間)

嵯峨野日記(下)*

一九八〇年(昭和五五年)一〇月二〇日発行 新潮社 四六
判 布装 上製カバー オビ 二四六頁 一〇〇〇円 装
幀・挿画・横尾忠則

§嵯峨野日記(下)(I無常／桔梗とほととぎす／やまもも／
萱草の花／心の闇／女が引退する時／死者の声／あるお方
に／お国自慢／ゆべし／捨聖／執／国東巡礼／II師の遷化／
グリーン・フィンガーズ／月夜／空しすぎる／松茸狩／無一
物／嵯峨大念仏／エルミタージュと正倉院／秋深し／講演ぎ
らい／うちの大根／寂庵柚子／清涼寺仏名会／III幻の国／冬
うらら／坐禅／時間について／年齢／緑の下で／梅雨好日／
竜神夜話／螢火／祇園祭／ある晩年／蟬時雨／死者供養／IV
みそはぎ／ゴルフと山椒魚／青いブラウス／旧友たち／野仏
庵の朝茶事／女の祈り／しゃぼん玉の夢／教誨師／おその／
微笑仏／貴船菊／一葉忌／托針行／暦の果) 初出

ブッダと女の物語

一九八一年(昭和五六年)四月八日発行 講談社 四六判 厚
紙装 上製カバー 二二七頁 九八〇円 装幀・横尾忠則
§ブッダと女の物語(マーヤーのはなし／ヤソーダラーのは
なし／スジャータのはなし／マハーパジャパティーのは
なし／ウッパヴァンナーのはなし／サーマーヴァティーと
マーガンディヤーのはなし／パターチャラーのはなし／ヴ

エーデーヒーのはなし／プラクリティのはなし

愛の時代(上) *

一九八二年(昭和五七年) 十一月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー 三〇二頁 一〇〇〇円 装画・加藤一 装幀・山岸義明

§愛の時代上巻(紅椿／しだれ桃／牡丹／都忘れ／二人静／しもつけ草／てっせん／沙羅／白蓮／さるすべり／むくげ／ひおうぎ)

愛の時代(下) *

一九八二年(昭和五七年) 十一月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー 二九三頁 一〇〇〇円 装画・加藤一 装幀・山岸義明

§愛の時代下(桔梗／こぼれ萩／山茶花／紫式部／貴船菊／散紅葉／晩菊／ぼけ／水仙／玉椿／白梅)

美は乱調にあり〈新装版〉*

一九八四年(昭和五九年) 三月一日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 二八六頁 一三〇〇円 装幀・司修

§美は乱調にあり

諧調は偽りなり 上*

一九八四年(昭和五九年) 三月一日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 カバー オビ 二五二頁 一一〇〇円

§諧調は偽りなりへ上巻(二・三〇)／初出誌

諧調は偽りなり 下*

一九八三年(昭和五八年) 三月一日発行 文藝春秋 四六判

厚紙装 紙カバー オビ 二四六頁 一一〇〇円 装幀・司修

§諧調は偽りなり下巻(31～39) 参考文献／初出誌

ここ過ぎて―白秋と三人の妻―*

一九八四年(昭和五九年) 四月三〇日発行 新潮社 四六判 厚紙装 上製カバー 五〇二頁 一六〇〇円 装画・松尾敏男

§ここ過ぎて(写真／江口家系図／一章～十七章) 参考文献

青踏へ上*

一九八四年(昭和五九年) 一〇月二〇日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二六八頁 九八〇円 装画・牧進

§青踏上(序章／一章～十五章)

青踏へ下*

一九八四年(昭和五九年) 一〇月二〇日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二四六頁 九八〇円 装画・牧進

§青踏下巻(十六章～二十九章) 参考文献

『婦人公論』一九八二年一月号より、一九八四年八月号まで、三十一回連載

私小説*

一九八五年(昭和六〇年) 一月一二日発行 集英社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 三〇六頁 九八〇円 装画・熊

谷守一「臥裸婦」（昭和四二年作） 装幀・後藤市三

§私小説（亡き姉に／1～17）

ぱんたらい＊

一九八五年（昭和六〇年）二月一六日発行 福武書店 四六判 厚紙装 カバー 二七〇頁 一一〇〇円 装丁・司修 §ぱんたらい

風のない日々＊

一九八六年（昭和六一年）七月二〇日発行 新潮社 四六判 厚紙装 カバー 二六五頁 一一五〇円 装画・横井照子

§風のない日々／鞆／影／マッシュルーム／微笑／蛇の衣／薄暮／告別式／佻助／梅／白萩／われもこう／初出

恋川⑤へ大活字本シリーズ＊

一九八六年（昭和六一年）一〇月一〇日発行（限定部数500部） 埼玉福祉会 A4判 厚紙装 三七七頁 三五〇〇円 装幀・早田二郎

§恋川（恋の重荷／梅屋敷／朱い耳／雪持笹／初菊／霜月／銀河／螢の夢／ほつれ毛／引窓／高砂／わかれ道／満願／蝶の影／夕霧／花えらび／道行）

恋川⑥へ大活字本シリーズ＊

一九八六年（昭和六一年）一〇月一〇日発行（限定部数500部） 埼玉福祉会 A4判 厚紙装 三九五頁 三五〇〇円 装幀・早田二郎

§恋川中（緋牡丹／片えくぼ／秋海棠／五月雨／浅い夢／実と花／大川端／きずな／狐火／坂道／妬炎／恋盲／黒い蝶／

流浪／曲り角／ぬれぎぬ／かんにんしてや／炎の花）

恋川⑦へ大活字本シリーズ＊

一九八六年（昭和六一年）一〇月一〇日発行（限定部数500部） 埼玉福祉会 A4判 厚紙装 三八九頁 三五〇〇円 装幀・早田二郎

§恋川下（流れ藻／朝焼け／前夜祭／猷華／女ごころ／影の人／陽の人／夜の雪／竹林の風／桂川／俄雨／夢の女／道づれ／人形の泪／露草／黄色の花／風の声）解説（戸坂康二）

家族物語へ上＊

一九八八年（昭和六三年）五月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー 三〇四頁 一二〇〇円 装画・高橋秀装幀・山岸義明

§家族物語（蜚／白桔梗／鶉飼／ハンモック／芙蓉／波／木屋／冬紅葉／柘／木枯し／風花）

家族物語へ下＊

一九八八年（昭和六三年）五月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 三〇一頁 一二〇〇円 装画・高橋秀 装幀・山岸義明

§家族物語へ下（臘梅／春泥／昼月／春雷／柳はみどり／新緑／紫陽花／河鹿／夕月／銀河）

生死長夜

一九八九年（平成元年）五月三〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二五〇頁 一二〇〇円（本体一六五円） 装幀・高橋秀

§ (生死長夜／淹／優しい夫／別れた男／通夜／金の沓／時計／他人の夫／硝子のなかに蝶／掌編小説へはなみずき 紫陽花 桔梗 昼顔) 初出掲載誌発表年月

あふれるもの〈瀬戸内寂聴自選短篇集〉

一九八九年(平成元年) 一〇月一〇日発行 学藝書林 四六判 厚紙装 カバー オビ 二九六頁 一五五〇円(本体一五〇五円) 装画・室越健美

§ あふれるもの(花芯／あふれるもの／夏の終り／けもの匂い／みみらく／蘭を焼く／吊橋のある駅) 初出誌・単行本一覽

手毬

一九九一年(平成三年) 三月一五日発行 新潮社 四六判 厚紙装 上製カバー 二六九頁 一三〇〇円(本体一二六二円) 装画・中島千波

§ 手毬(一／十二)

花に問え

一九九二年(平成四年) 六月二五日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 カバー 二四四頁 一二〇〇円(本体一一六五円) カバー画 中島千波「草の主」(栃木県立美術館蔵)

§ 花に問え(一／十二)／初出

渴く

一九九三年(平成五年) 九月二〇日発行 日本放送出版協会 四六判 厚紙装 カバー 二七八頁 一五〇〇円(本体一四五六円) 装幀・芦沢泰偉 装画・中島千波

§ 渴く(一／十五)

草筏

一九九四年(平成六年) 七月七日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 カバー 二五〇頁 一三〇〇円(本体一二六二円) 装幀・日比野克彦

§ 草筏(誕生日／ゆく川の／山径／ゆめの記／帽子／沙羅／花束／夜の虹／石／遷化／蝶の昼)

愛死(上)

一九九四年(平成六年) 一月二二日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー オビ 二六五頁 一四〇〇円(本体一三五九円) 装幀・横尾忠則

§ 愛死(上) (第一章 パラダイス／第二章 昼の花火／第三章 迷路／第四章 流灯／第五章 秋雷)

愛死(下)

一九九四年(平成六年) 一月二二日発行 講談社 四六判 厚紙装 上製カバー 二七八頁 一四〇〇円(本体一三五九円) 装幀・横尾忠則

§ 愛死(下) (第六章 いつも朝／第七章 古式の微笑／第八章 さか潮／第九章 菊枕／第十章 夢の浮橋) 初出

恋の旅路 (Roman Book Collection)

一九九五年(平成七年) 七月一〇日発行 朝日出版社 一二・八×一九・三 紙装 カバー 一三四頁 写真・稲越功一 造本・坂川事務所

§ 恋の旅路(ラストシーン／海峡／はるかなり恋の路) 出典

白道

一九九五年(平成七年)九月二六日発行 講談社 四六判
 布装 箱 三七四頁 二〇〇〇円(税別) 装画・題字・榊
 莫山 装幀・辻村益朗
 §白道

二、随筆・評論

恋愛獲得講座*

一九五九年(昭和三四年)三月一〇日発行 和同出版社 四
 六判 厚紙装 二五〇頁 二六〇円 装本・生沢朗

§恋愛獲得講座(恋愛、このすばらしきもの―第一章はじめ
 に/あなたはなぜ恋人がいない―第二章恋愛飢餓時代/あな
 たは待たれている―第三章異性獲得法/快楽よ、いつまでも
 ―第四章恋愛経営法/一度は考えておくべきこと―第五章恋
 愛社会学/恋愛とは、こういうもの―第六章むすび)

愛の素顔*

一九六一年(昭和三十六年)九月一日発行 徳間書店 B40判
 紙装 カバー 三二三頁 装丁・デザイン実験室えこうむ
 カバー写真・中村立行 挿絵・小松久子

§愛の素顔(第一話 求婚以前/第二話 第二の初夜/第三
 話 罪ある快楽/第四話 惑いの日々/第五話 狂った歯
 車/第六話 妻の椅子/第七話 娘のライバル/第八話 七
 年目の危機/第九話 夫の罨/第十話 離婚請求/第十一話

妻がそれを知ったとき/第十二話 三度目の男/あとがき)
 道*

一九六五年(昭和四〇年)七月一二日発行 文化服装学院出
 版局 四六判 厚紙装 箱 一三四頁 四五〇円 装画・小
 林今日子 装丁・小堀神風

§(旅路/梅のきもの/ふるさとのひな祭り/港のある街/
 流れのほとり/背中の顔/ゆかた/見出される時/花の旅
 情/パリへ/きもの/見知らぬ人へ/山茶花と指/嵯峨野の
 道/秋風ときもの/時計/かんざし/ふろ/七色のバラ/
 「実は……」/墓の顔/ある文学碑/妖しい生物/蔵の中/お
 しろいの中から/女作者の死/黒門市場のうどん/見るとい
 うこと/忘れるということ/逢うということ/捨てる/過ぎ
 たるは/私の小説作法/私の書きたい女/執念の顔/これが
 ポイント/かの子の歌/上野界限/食魔/一平全集の語るも
 の/女流作家と文学碑/一期一会/死に様/道/母ときも
 の/故里と酒/わかれ/幻の大阪/春寧)

一筋の道*

一九六七年(昭和四二年)一〇月三〇日発行 文藝春秋 四
 六判 厚紙装 箱 オビ 二七三頁 五〇〇円 写真撮影・
 石黒玲子・田辺猛・本社写真部 装幀・車谷弘

§一筋の道(三味線作り/櫛づくり/浮世絵の彫師・刷師/
 講談師/床山/すだれや/花火師/筆づくり/幫間/そば
 や/きせる作り/紐づくり/江戸小絞染/装演師/螺鈿師/
 金魚づくり/刀剣研師/ふぐ料理屋/漆芸家/鋳職/袋物

師／指物師／能管師／千菓子作り／藍染師／揚げ幕係り／定
斎屋／仕立物師／人形師／上絵師（紋描き）／あとかき

愛の倫理―才気ある生き方―*

一九六八年（昭和四三年）四月一日発行 青春出版社 四
六判 厚紙装 カバー 二一五頁 八九〇円 カバー・武笠
昇

§愛の倫理（写真／わたしからあなたへ／写真／女であるま
えに／I愛からの追求／II愛からの自覚／III愛からの生き甲
斐）

あなたにだけ*

一九六八年（昭和四三年）二月二五日発行 サンケイ新聞
社出版局 四六判 紙装 カバー 二九六頁 四三〇円 装
幀・堀内誠一

§あなたにだけ（灰と真珠／林の中に／冷い雨／昏い店／盲
の鮎／短い旅／青い薔薇／爽やかな朝／白兔／夜の底／白い
魚／風の声／残夢／火の遊び／家の灯／岬の虹／伽羅の香／
心の沼／帰り途／逃げ道／疑惑／綱渡り／ぬかるみ／苦い
夜／衣がえ／花の中／白い数字／風綾／みずうみ／迷路／陰
画／渴き／夫の秘密／悪夢／花束／クールな笑い／綾とり／
みれん／泣きほくろ／秋の雨／月光／聖母子／花の椅子）

ゆきてかえらぬ*

一九七一年（昭和四六年）六月二〇日発行 文藝春秋 四六
判 布装 上製カバー 二三四頁 六〇〇円 装幀・藤田吉
香

§（よきてかえらぬ／三鷹下連雀／霧の花 夢二秘帖／春へ
の旅／鴛鴦）

放浪について*

一九七二年（昭和四七年）二月二七日発行 講談社 四六判
厚紙装 上製カバー 四三三頁 七六〇円 造本・杉浦康平
§放浪について（風の声、鐘の声／一 京の正月／正月の女
客たち／着る愉しき／ひとり旅／いきのぶるわざ／青い壁／
古式の微笑／迷信と私／黄色い薔薇／民族と衣裳／追憶の旅
愁／女の一生／ともしび／失われた日々／二 観たい芝居／
「かの子撩乱」劇化について／女優になりそこねた話／樹座ほ
ど面白いものはない／幻の名優／新「夏の夜の夢」／はじめて
の戯曲／三 美しく死ぬために／秋水の書簡／死のさまざ
ま／田村俊子の父について／丹念なアルバム／「反逆する女
たち」が教えるもの／私の取材ノート／「遠い声はか」／四
女流作家になる条件／「才能の山」について／本とつき合う
法／日記の告白／晶川への潤一郎の手紙／解放されない性の
ために／世界を裏がえす魔術師／ジャン・ジュネ全集書評／
極楽トンボの記―私小説と私／幻の美女たち／瑞々しく匂う
文章を／なぜ性を書くか／デュラスの魅力／自分への問い／
女流作家と家庭／コレットへの憧れ／批評について／五 椿
の実／黒い顔／笑顔／青い支那服／今様写楽斎／赤いテント
に美少年／はらから／ちりめんじゃこに始る／華やかなる死
―桐竹紋十郎師を偲んで／森田たまさんのこと／武田秘伝伝
授／六 無響室／烈しい生と美しい死を／買う愉しみ／尼寺

の雛／名前雑感／三種の妙技／放浪について／合歓／きものに想う／動物ざらい／花によせて／その絵との出逢い／残された夢／年末行事／花のことは／真夏の夜の恐怖／途上／人形のなげき／黒髪と藤の花／私の好きな言葉／京の川／風の匂い／嵯峨野讃歌）

ひとりでも生きられるへのちを愛にかけようとするとき

*

一九七三年（昭和四八年）三月一五日発行 青春出版社 四六判 厚紙装 上製カバー 一三〇頁 五九〇円 カバー画・福地泰蔵 カバー撮影・谷川知司 本文カット・生沢朗 §ひとりでも生きられる（写真／はじめに―命をかけて愛そうとするとき／前章女が生涯に一人の男を愛するとき／本章1男の前を裸になって横切れるか／本章2「女を生きたい」実感が欲しいとき／本章3愛を^{もと}需める女、^{もと}需められる女／本章4どんなに^{からだ}軀を合わせても一つにならない／本章5自分のしるしを刻みつけた人／本章6今、なくてはならない女になるべきだ／本章7自己愛の醜さをさらす女心／本章8自負する女は盲想に^や嫉いて狂乱する／本章9男との生活を断ち切ろうとする心の中／本章10心の奥底にかくされた男と女の結びつき／本章11女の中に眠っていた才能／本章12女が男を深く恋する方法／本章13男と女の立場はある瞬間にかわる／本章14男に頼らず生きようとする女の愛し方／本章15女が男を見限ってしまう理由／本章16自分の愛の力が他を決して充たさない／後章妻がはじめて気づいた空疎な「妻の座」

談談談*

一九七四年（昭和四九年）二月一五日発行 大和書房 四六判 厚紙装 カバー 二七〇頁 一三〇〇円 ブックデザイン・横尾忠則 写真・勝山泰佑 速記・荻原達弘・岡山苑・真瀬垣のり江

§談談談（写真四十葉／聞き上手の慈母観音（冒頭インタビュー）江国滋／男はひとりで生きられない 藤山寛美／神さまにお尻をむけて 遠藤周作／たった一度の騎士道的な恋 今東光／なぜ夫婦なのか 野坂昭如／美男歌手がひかれる男と女 丸山改め美輪明宏／恥はほの見えに 中井英夫／「蔵売って日当りのよい牡丹かな」 中島六兵衛／安見児得たり 河野多恵子／小説より上手なアンマもみ療法 吉行淳之介／積極的タブーのすすめ なだいなだ／捨て子をするなら国会へ 小沢遼子・中山千夏／こちら側からあちら側の話 横尾忠則／「寂かに聴く」 稲垣足穂／「紅葉燃ゆ旅立つ朝の空や寂」（共同インタビュー）昭和四十八年十一月十四日中尊寺にて／あとがき

見知らぬ人へ―文学的自叙伝*

一九七四年（昭和四九年）二月二〇日発行 創樹社 四六判 上製カバー オビ 二七四頁 九八〇円 装画・浜口陽三 装本・道吉剛

§見知らぬ人へ（白い手袋の記憶―エッセイふうの―／I道／母／故里と酒／幻の大阪／はらから／阿波路のお遍路／母ときもの／やまもも／名前雑感／港のある街／わたしの母

校／ふたりの恩師／三種の妙技／ふるさと雑感／迷信と私／わが若き日／ふるさとのひな祭り／ふるさとの初日／II女優になりそこねた話／春寧／わかれ／春の夜／タンスを洗う／女の友情／私の処女作『痛い靴』／処女作のころ／幻影なき青春／流れのほとり／捨てる／ふろ／七色のバラ／時計／みれん／見知らぬ人へ／III旅路／水上雑感／少女／土と少女／ふるさと／職人の血／菜の花／正月の旅／作家の日記／尼寺の雛／引越し病い／旅愁／辞書にも表情が出る／酒中日記―酒びたり好日／カメラのエロティシズム／無題／私の後悔／食べる／手相みてあげましょうか／ただひとつの道）

遠い風近い風＊

一九七五年（昭和五〇年）一月三〇日発行 朝日新聞社 四六判 厚紙装 カバー 二二八頁 八六〇円 本文挿画・斎藤真一 装幀・本文構成・杉浦康平・海保透

§ 遠い風近い風（黒髪／名前のいのち／ゆるされて生きる／めがね／花かげ／吉屋信子さんの句集／人間の地獄／山にむかひて／残された憧れ／尼僧のおしゃれ／生きる快樂／源氏物語の女たち／仏の贈り物／人間恐怖症／雨のぐち話／ある穏やかな死／氷の鉢巻き／文学者の責任／朝顔／わが妻ベティ／夏の反乱／秋さやか／女というもの／鈴虫／木曾路の秋／壬生狂言／乗り物恐怖症／おてんば老女／二世の縁／ソルジェニーツィンの妻／物いわぬは／またも紅葉が／行雲／無智にぞありたき／口べっぴん／日めくり／嵯峨野へ／差物の下に／日記／恩と運／初のろけ／雪大文字／形見分け／一

枚のこて／隣人／しゃりこうべ／傘の祝／餓鬼の食事／春告鳥／大臣からの恋文／世にも不思議な物語／美と信／ふたたびの春／飛花落葉／秋灯）

見出される時―文学的自叙伝＊

一九七五年（昭和五〇年）一月三〇日発行 創樹社 四六判 厚紙装 上製カバー 三一〇頁 一一〇〇円 装幀・道吉剛 装画・浜口陽三

§（I見出される時／逢うということ／忘れるということ／背中の顔／過ぎたるは／死にざま／日本人の歳末感／私のア・ナ・カレーニナ／「妻の座なき妻」との訣別／東京の空の下／陽気な職人／江戸・東京の住み好き住み難さ／作家の日記／日記／蔵の中／酩酊に似た幸福感／見えるもの／II東京を捨てて京都に移るの記／最後のもの／烈しい生と美しい死を／このいとしきもの―わが蔵書／「蒼馬を見たり」―詩と私／わが師わが友／「文学者」と私／秋のぐち／人間の幸福とは何か／「歩くこと」への憧れ／日記の迷い／徳島の人形廻し／黒髪と藤の花／残された夢／放浪について／エメラルドと川端夫妻／合歓／私の北京／幻の女たち／古里の黄昏／III風の声、鐘の声／ホテルとわたし／物心ついた時から／家と蒸発欲望／みどりの腰巻／五秒前の呟き／「書き死」の覚悟／酒に交われば／修羅八荒／私の過去帳／北京は変っていた／幻ならず―北京再訪／道元と私／昏き闇より―わが回心の記／中尊寺へ／その前後／人間家族を捨てるまで／遮断機への道／鶯の宿から）

山河漂泊*

一九七五年(昭和五〇年)七月二五日発行 平凡社 四六判
厚紙装 カバー 二五〇頁 一二〇〇円 装幀・堀文子 写真・矢野建彦

§写真／山河漂泊(大和の塔／初瀬詣で／飛鳥路／柳生街道の石仏／大台ヶ原／高野紀行／大文字の夜／西陣の人たち／真如堂黒谷界限／丹波立杭／萩へ／伊豆下田／人形のいざない——京都・阿波・三春——／宇治紀行／高野川)発表掲載誌書

嵯峨野より*

一九七七年(昭和五二年)三月三一日発行 講談社 四六判
クロス装 カバー オビ 二五〇頁 九八〇円 装幀・横尾忠則

§墓のある窓／杜鵑鳴く頃／草樹の声／沙羅と螢／花々の声／火の祈り／月と曼珠沙華／秋冷の中に／あがほとけ／冬枯れの道／雪の哀しみ／栄華の人／春の客たち／花狂い／梅子熟す／七夕の誓い／対岸の花火／あだし野の千燈会／彼岸のあとさき／切に生きる

有縁の人*

一九七九年(昭和五四年)四月三〇日発行 創林社 四六判
厚紙装 上製カバー 二七八頁 一二〇〇円 装幀・記載なし

§有縁の人(一 一期一会／机の上の幾山河／女作者の死／宮田文子さんの死顔／森田たまさんのこと／平林さんの草

履／平林さんとお墓／無垢の人／永遠のフェニックス／円地さんの一面／押しかけ客／一つ屋根の下の文豪／法然院の墓／豪華メニュー／合せ鏡／佐藤春夫のこと／二 北京の奥野さん／『文学者』と私／丹波先生のこと／黒い雨傘／愕いた声／エロスの対談／椿の実／やわらかい掌／バツカスは惑星にのって／ちりめんじゃこに始まる／なつかしい人／茶碗河童／師の遷化／ガールフレンドの弁／武田秘伝伝受／夜中まぶたは：／ある晩年／三 川端康成先生を悼む／エメラルドと川端夫妻／モジャイスキー号の癩癩／十日の菊／奇妙な友情／悪魔の棲む男／昏い日／「才能の山」について／河野多恵子の執念／美青年／水のように／人と小説の間／心優しき虚構者／嘘つき聖人／朝のコーヒー／四 わが友、安田南／今様写楽斎／赤いテントに美少年／少女の頃と中原淳一／女体と野ざらし／異様な熱気のなかで／生命のままだ／歌右衛門丈の素顔／黒い顔／華やかなる死／傀儡Ⅱ奇怪な生命力)

風のたより

一九七九年(昭和五四年)五月一五日発行 海竜社 四六判
厚紙装 上製カバー 二四三頁 九八〇円 ブックデザイン・勝井三雄 紙版画・井上員男

§第1章風のたより(凍蝶／手毬／黒髪／花屑／葵祭／夏衣／白いパラソル／風鈴／夏の終り／金木犀／冬への旅／手袋の片手)第2章情熱の行方(情熱の行方／いのちがけで燃えるとき／男友だち／深夜のレコード・コンサート)第3章

夜の雪（夜の雪／沙羅の花／人なつかしき）第4章いのちの
声（許されて今日を生きる／いのちの不思議／内助の夫／信
のある者は自らを律する／小さな過去帳／魂と出会う場所／
霊との語らい／心平らかならざる日々なれど／布施のここ
ろ）第5章切に生きる（切に生きる／執念のたたかい／母と
娘の宿縁）第6章無辺の愛（美女の不幸／無辺の愛につつま
れて／あなたまかせの安心感／水子供養／尼仏師／顔施のす
がすがしさ／仏前結婚／心のよりどころを求めて／食前の合
掌／人の不幸を思いやる心／美しい死顔／花摘堂のこと）第
7章ひとは独り（ひとは独り／自分のよりどころは自分の
み／野ざらしの旅路の果てに）初出一覧

寂庵浄福

一九八〇年（昭和五五年）七月二〇日発行 文化出版局 四
六判 厚紙装 カバー 二四六頁 九八〇円 撮影・陸門一
三 装丁・レイアウト・江島任 カバー図版・いせ辰所蔵
§寂庵浄福（祈りの場／（一）正月の客／（二）春隣／（三）
雛の頃／（四）花まつり／（五）草餅／（六）牡丹の宿／（七）
紫陽花供養／（八）八十八夜／（九）桔梗と美女／（十）火
の祈り／（十一）月と土／（十二）秋麗ら／（十三）柚子の
里／（十四）雪清浄

瀬戸内晴美による瀬戸内晴美〈試みの自画像③〉

一九八一年（昭和五六年）三月二五日発行 青銅社 四六判
厚紙装 カバー 二三八頁 一二五〇円 装幀・渡辺英行
カバー写真・百瀬恒彦

§口絵写真／瀬戸内晴美による瀬戸内晴美／あとがき
伝教大師巡礼

一九八一年（昭和五六年）五月一五日発行 講談社 四六判
厚紙装 カバー 二二九頁 九八〇円 装画・近藤弘明 装
幀・山岸義明

§伝教大師巡礼（写真／序／比叡山の道／坂本界限／市殿神
社／百枝社／紅染寺跡／神宮禪院跡／近江国分寺跡／花摘
堂／延暦寺根本中堂／高雄山／遣唐使出発前／五島列島・田
ノ浦／五島列島・白鳥神社／三井楽・柏崎／天台山一／天台
山二／天台山三／独鈷寺・千年家／香春山神宮院／宇佐八幡
宮／神護寺／延暦寺東塔／朝日観音寺）

私の好きな古典の女たち*

一九八二年（昭和五七年）二月一〇日発行 福武書店 四六
判 厚紙装 カバー 二四二頁 九八〇円 装丁・菊地信義
§私の好きな古典の女たち（額田王―『万葉集』／後深草院二
条―『とはすがたり』／和泉式部―『和泉式部日記』／道綱の
母―『蜻蛉日記』／虫めづる姫君―『堤中納言物語』／朧月夜
―『源氏物語』／六条御息所―『源氏物語』／女三宮―『源氏
物語』／明石―『源氏物語』／浮舟―『源氏物語』）
旅と巡礼〈精神開発叢書77〉

一九八二年（昭和五七年）三月二〇日発行（非売品） 富山
県教育委員会 六八頁 紙装 カバー
§旅と巡礼（はじめに／自らの可能性を求めて／出家に至る
まで／得度によって導かれた世界／自ら求めた「行」の世界／

巡礼にみる人間のすがた／修験道へのあこがれ／おわりに)

寂聴巡礼

一九八二年(昭和五七年) 四月二六日発行 平凡社 四六判
紙装 カバー 二九四頁 九八〇円 カバー装画・風間完
装丁・中垣信夫

§寂聴巡礼(はるかなり巡礼の道／紀州路／河内から大和
へ／大和路／宇治／洛中巡礼／難所から湖畔へ／湖畔の巡礼
みち／蒲生野から西国街道へ／播磨路／丹波から若狭へ／満
願堂) 初出／西国霊場巡礼案内

寂聴巡礼〈装画本〉

一九八二年(昭和五七年) 五月二一日発行 平凡社 二〇・
〇×一六・〇 厚紙装 二九四頁 二四〇〇円 装画・風間
完 装丁・中垣信夫

§寂聴巡礼(はるかなり巡礼の道／紀州路／河内から大和
へ／大和路／宇治／洛中巡礼／難所から湖畔へ／湖畔の巡礼
みち／蒲生野から西国街道へ／播磨路／丹波から若狭へ／満
願堂) 初出／西国霊場巡礼案内

インド夢幻*

一九八二年(昭和五七年) 七月二〇日発行 朝日新聞社 四
六判 厚紙装 カバー 二一〇頁 一三〇〇円 装幀・横尾
忠則 写真・芳賀明夫 見返し・瀬戸内晴美「インド取材ノ
ート」より

§写真／インド夢幻／インドへ／カルカッタの除夜の鐘／魔
神カーリー／カルカッタの午後／ネパールの町／桃源境ポカ

ラ／聖なる神々の座／パトナ・落日と闇と／ラージギルの理
髪師／霊鷲山そして王舎城の悲劇／七葉窟／ナランダ／ブ
ッタガヤ・樹下瞑想／鹿野苑／聖地ベナレス／クシナガラ・
入滅の地／ルンビニー・誕生の地／カジュラーホ／アーグラ
城／タージマハル／ジャイプル・風の宮殿／デリー・ムガル
の古都／ニュー・デリーの街／インドの魅力)

いま、愛と自由をへ寂聴塾からのメッセージ

一九八二年(昭和五七年) 九月一〇日発行 集英社 四六判
紙装 カバー オビ 三〇二頁 一〇〇〇円 装丁・レイア
ウト・内部隆 装画・笠井正博 カラー写真・小沢忠恭 本
文写真・小沢忠恭 新正卓 勝山泰佑 芳賀明夫 徳島新聞
社 朝日新聞社 大月書店 創美社

§いま、愛と自由を(第一章 ここに集う 生きる・幸福・
自由／第二章 般若心経・文章作法入門 伝記小説の魅力／
第三章 孤高の死―荒畑寒村氏を悼む―樋口一葉の実像を探
る／第四章 釈迦はいかに生きたか もっと自由に、もっと
美しく／第五章 別れるということ 私の修業体験／第六章
観音経、そして祈り『源氏物語』―六条御息所のこと―／第
七章 「山頭火の風」アメリカ大陸で出会ったもの／第八章
坐禅と写経、一日入門 中国の旅から／第九章 ある青春、
神近市子／第十章 夢を失なわない心―古代染色を再現した
三人の青年―塾生の作文から／第十一章 結婚について／第
十二章 「宇治十帖」―人は愛していけないものはない―最
後にあたって)

印度・乾陀羅へ美と愛の旅1

一九八三年（昭和五八年）二月一八日発行 講談社 A5判
クロス装 カバー 一四三頁 一八〇〇円 写真・黒田一成
装幀・レイアウト・横尾忠則

§ 印度・乾陀羅（カラチ／ペシャール／カイバル／チトラール／スワート／タキシラ／ラーホール／ウダイプル／スリナガル）

敦煌・西藏・洛陽へ美と愛の旅2

一九八三年（昭和五八年）六月三〇日発行 講談社 A5判
厚紙装 上製カバー 一五九頁 一八〇〇円 装幀・レイアウト・横尾忠則

§（北京／西安・敦煌／トルファン／上海・成都／ラサ／洛陽）参考図書

人なつかしき*

一九八三年（昭和五八年）一〇月二五日発行 筑摩書房 四六判 厚紙装 カバー 二三八頁 一〇〇〇円 装幀・吉岡実

§ 人なつかしき（春逝く人 田村俊子／佗助の人 車谷弘／孤離庵離婚騒動記 遠藤周作／月明の径 里見淳／白い柩 里見淳／二世の縁 岡本太郎／雪の判決 市川房枝／愉しい本 横尾忠則／詩人 金子光晴／斜陽聖母子 太田静子・治子／「日日ふたり」のひとり 橋本憲三／ネクスト 荒畑寒村／赤い柩 荒畑寒村／こんにやくダイエット 大宅壮一／永遠の初心 円地文子／孫弟子の弁 吉川幸次郎／大根おろ

し 今東光／情熱の人 神近市子／闘いの終り 神近市子／青鞥の人 小林哥津／星からの贈り物 杉浦康平／きやしやな背中 北畠八穂／北京に想う人 土岐善磨／千載の憂い 勅使河原蒼風／トランクの中 菊田一夫／辛い四川料理 巴金／牡丹の人 小林勇／けいらん巻 御簾納キン／黒いソフ ト 東郷青児／一生の服 三宅一生／雨の買物籠 生田花世／青い日の西洋乞食 モラエス／茂子さんおめでとう 富士茂子／茂子さん聞きましたか 富士茂子／ある年譜 城夏子／寂しい華麗 勅使河原霞／千代観音 宇野千代）

愛と祈りを

一九八三年（昭和五八年）七月一日発行 小学館 四六判 厚紙装 カバー 二二三頁 九八〇円 カバー・本文イラスト・永田萌 デザイン・玉井ヒロテル

§ 愛と祈りを（愛のおくりもの／もののいのち／いづこへ／あとがき）

瀬戸内寂聴が語る「小さい僧の物語」へかたりべ草子 五

一九八四年（昭和五九年）二月一〇日発行 平凡社 四六判 厚紙装 カバー 二二八頁 一二〇〇円 口絵・小島寅雄 『二合庵遊戯』（かまくら春秋社刊より） 挿画 秋野不矩 装幀・菊地信義

§（はじめに／小さい僧の物語―説話の中の十七話／石童丸―善光寺の親子地蔵／山椒太夫―安寿と厨子王を守った地蔵さま／寂庵の地蔵盆／賽の河原地蔵和讃―「おわりに」にかえて）

一筋の道〈新装版〉*

一九八四年(昭和五九年) 一月一五日発行 文藝春秋 四六判 厚紙装 カバー 二七三頁 一二〇〇円 装幀・菊地信義 写真撮影・石黒玲子・田辺猛・本社写真部

§三味線作り／櫛づくり／浮世絵師の彫師・刷師／講談師／床山／すだれや／花火師／筆づくり／幫間／そば／きせる作り／紐づくり／江戸小絞染／装潢師／螺鈿師／金魚づくり／刀剣研師／ふぐ料理屋／漆芸家／鋳職／袋物師／指物師／能管師／干菓子作り／藍染師／揚げ幕係り／定斎屋／仕立物師／人形師／上絵師(絞描き)／あとがき

寂庵説法

一九八五年(昭和六〇年) 三月二八日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー 二〇八頁 一〇〇〇円 装幀・山岸義明 写真・勝山泰佑

§寂庵説法(出逢いについて／むなしさについて／幸福について／無常について／別れについて／命について／祈りについて／加持について／老いについて／愛について／怒りについて／母と子について／死について)

幸福と不安のカクテル*

一九八六年(昭和六一年) 六月一〇日発行 大和書房 四六判 厚紙装 カバー 二二〇頁 一二〇〇円 写真・吉村則人 布・柳清子コレクション「パトラ」

§幸福と不安のカクテル(第一章〈煩惱の行方〉／第二章〈幸福と不安のカクテル〉／第三章〈底に到って始めて休む〉)

第四章〈顔から顔へ〉

寂庵だより

一九八六年(昭和六一年) 六月二五日発行 海竜社 四六判 厚紙装 上製カバー 二二三頁 一一〇〇円 ブックデザイン・勝井三雄 カバー版画・笠井正博

§寂庵だより(第一章女から女へ：女から女へ／女と孤独／ある懺悔／捨ててこそ／女の旗、手から手へ／韓国の尼たち美しい花々／第二章出逢い：シルクロードの旅／出逢い／日記／臍の緒の話／有縁の人／「寂聴塾」事始／「私塾」の時代／古都感懷／僧伽落慶／布施と法施／第三章いのち燃える：創ること、生きること／男の夢 幻の色／幻の袂紗／酒つれづれ／愛の証し／弱法師の日想観について／第四章切に思う：三塔巡拝にはじまる／聖霊の宿る山へ／切に思う／丹波の木喰仏／ナニゴトノ不思議ナケレド／逆縁／罪をも許す／写経と私／私と仏教)／初出一覧

いのち華やぐ

一九八六年(昭和六一年) 一〇月二〇日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー 二二六頁 一〇〇〇円 装画・「李朝の民画」より 複画彩色・佐藤篤司

§いのち華やぐ(命なりけり／晩年のかげやき／愛にはじまる／ある晩年／ついのすみか／灰のぬくみ／末期の目／この年になって／思えばこそ／旧友／死後の始末／死への覚悟／老いもたのし／赤いコンパクト／ある京女の最期／渡水看花①／渡水看花②／横川の行／微笑仏／嵯峨野僧伽落慶／摩訶

不思議／遊戯三昧／一滴文庫／たのしい夫婦／共に泣く／遂業証書／長く歩いた裁判の道／良薬口に甘し／不幸のかたち／老女の孤独／最後の言葉／利賀フェスティバル／辻奎子さんの死／生命について／虫の音／遺族の悲痛／お手玉／到彼岸／秋へんろ／金木犀／杉箸のにおい／甲山事件／月下美人／受難ふたたび／戒名について／法臘／あんず句会／秋すぎて／晩年／柚子実る／雪大文字／日記について／七種のあと／最後の幸せ／人のいのち／神の証し／冬へんろ／針供養／畑打ち／真珠のネックレス／アイラブオール／再婚の手本

私の京都小説の旅*

一九八七年(昭和六二年)三月九日発行 海竜社 B40判 紙装 カバー 二三八頁 八〇〇円 ブックデザイン・田中淑恵 地図・阿部千恵 写真・小田比呂志・田中順・廣瀬雅信 §私の京都小説の旅(洛北・貴船①)／大原②／比叡③／詩仙堂④)／東山に沿って／銀閣寺⑤／南禅寺⑥)／花だより／洛中へ葵祭(上賀茂神社⑦下鴨神社⑧)／大市⑨)／六角堂⑩)／壬生寺⑪)／「鴨川」)

愛と別れ―世界の小説のヒロインたち―*

一九八七年(昭和六二年)五月一五日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー 三二二頁 一三〇〇円 装幀・横尾忠則 §愛と別れ(不倫の恋に殉じた悲劇の女―トルストイ「アンナ・カレーニナ」／男を罪に誘う官能の女―フローベル「ボヴァリー夫人」／純真無垢ゆえに落魄する女―モーパッサン「女

の一生」／不実で可憐、純情不貞な女―アベ・プレヴォー「マノン・レスコー」／優しい性愛の深淵で安らぎを得た女―ロレンス「チャタレイ夫人の恋人」／歓楽の生活を捨て真実の恋に死ぬ女―デュマ・フィス「椿姫」／此の世ならぬ狂気の愛に憑かれた女―エミリー・ブロンテ「嵐が丘」／地上的肉欲を拒み不可能な恋に死ぬ女―アンドレ・ジイド「狭き門」／男の情熱と野心に征服される貞淑な女―スタンダール「赤と黒」／献身的に愛しすぎて男に疎まれた女―コンスタン「アドルフ」／情熱のない性愛の無意味にめざめる女―マルグリット・デュラス「モデラート・カンタービレ」／鳥籠の中の生を拒み自由を求めて飛ぶ女―トルーマン・カポーティ「ティファニーで朝食を」／反抗の夏が過ぎて悲しみに残された少女―フランソワーズ・サガン「悲しみよこんにちは」／女蕩らしの男を真の恋に生きさせる女―チェーホフ「犬を連れた奥さん」／不思議な情熱に誘われ夫を殺そうとする女―モーリヤック「テレーズ・デスケル」／二五歳年下の青年と愛欲の生活に溺れる女―コレット「シエリ」)

魅力ある人間・魅力ある女性(人間の時代・心の時代三冊中の一)

一九八八年(昭和六三年)二月二〇日発行 株式会社エントフ アイナンス 一五・四×二五・五 紙装 三冊箱入 編集・講談社 六二頁 非売品 造本・鈴木一誌+大竹左紀斗 撮影・丸山勇 編集協力・グループ現代 手動印字・小野楨一 §魅力ある人間・魅力ある女性(第一章生きる情熱／中国人

の烈しさ／私を守ってくれた中国女性／「報仇以恩」／女性は天の半分を支える／オノ・ヨーコ／則天武后／唐の後宮／自分の子供を殺した武后／東洋の元祖ウーマンリブ／武後の魅力と政治能力／寵愛——ちようあい——した男たち／女は未来を産む／女性上位万歳／第二章忘己利他の教え——まずは三行半——みくだりはん——にご用心／絹の道はゴビ砂漠を越えて／骸骨——がいこつ——の道しるべ／日本のお経も玄奘の訳／諦めてはいけない／土地は記憶する／「文明単位」——ぶんめいたん——いのホテル／文明とはサービスなり／サービスとは思いやりの心／国の宝、会社の宝／本で想像力をきたえる／渴愛は凡夫の愛／慈悲は無償の愛／渴愛を慈悲に近づける／煩惱の川を渡る／顔を施す／惜し気なくニコニコ／鉄板の上で踊るネコ／自分の仕事を愛する／いちばん大事なこと

愛の四季*

一九八八年（昭和六三年）二月二五日発行 角川書店 四六判 厚紙装 カバー 二三六頁 九八〇円 装丁・杉浦康平・赤崎正一・佐藤篤司 本文写真・小西祐典

§愛の四季（無償の愛／別れの覚悟／柳川の白秋／その終りから／ゆるされる愛／青葉燦爛／僧伽誕生／愛人／美登利の初店説への疑問／されど結婚／愛の曲り角／忘れられた愛／渴愛——釈尊の女性観——あとがき——はじめに愛ありて——

新寂庵説法——愛なくば

一九八八年（昭和六三年）三月一五日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー 二二五頁 一〇三〇円（本体・一〇〇〇円）

装幀・山岸義明 写真・勝山泰佑

§新寂庵説法（第一話 渴愛／第二話 愛のゆくえ／第三話 愛別離苦／第四話 不倫の告白／第五話 逆縁の苦しみ／第六話 ここで聴く／第七話 孤独に耐える／第八話 愛のさめる時／第九話 若い友だち／第十話 性は生の終りまで／第十一話 美空ひばりさんへの手紙／第十二話 別れと金銭／第十三話 得度式／第十四話 生きるための健康／最終回 嫉妬について）

寂聴般若心経へ生きるとは

一九八八年（昭和六三年）一〇月七日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 カバー オビ 二九二頁 一〇〇〇円 カバー画・上村松篁「蓮」見返し・「隅寺心経」（奈良時代の写経）本文写真・勝山泰佑

§仏縁のあかしに／般若心経法話（一 仏教とは——お釈迦さまの教え／二 観自在菩薩——慈悲の観世音／三 五蘊は空なり——宇宙の生命を信ずる／四 色即是空——苦しみからの解放／五 諸法は空相なり——因、縁、果／六 無明——十二縁起の悟り／七 苦集滅道——四つの真理、四諦と八正道／八 心に罣礙なし——自由自在な心／九 三世諸仏／十 呪——真言は仏の真実の言葉／十一 掲諦掲諦——宇宙の生命によびかけるマントラ）／『般若心経』について

天台寺の四季☆

一九八九年（平成元年）五月発行

寂聴天台寺好日

一九八九年（平成元年）七月九日発行 文化出版局 A5判
厚紙装 上製カバー 二四五頁 一五〇〇円 写真撮影・土
井武 造本・レイアウト・杉浦康平＋谷村彰彦

§寂聴天台寺好日（仏縁によって天台寺に：みちのくへ行
く／天台寺へ趣く縁／晋山までのひと月／天台寺あけくれ：
花と人との環／はじめての夏／たばこの葉ののびる頃／泉の
湧く樹／御山に生命とりもどし：不滅の法灯を迎えて／地藏
とコスモス／天台寺法話：己を忘れ他を利する／人間の及ば
ぬ力／今日を生きる／八葉山天台寺へのご案内）

寂聴写経のすすめ

一九八九年（平成元年）五月二〇日発行 法蔵館 二五・
九×一五・八 紙装 カバー 一一八頁 一三〇〇円（本体
一二六二円） 装丁・杉野諒

§寂聴写経のすすめ（はじめに／写経について／般若心経／
般若心経について／むかし写経は／対談 お写経のひと文字
ひと文字が仏さまへ安田暎胤・瀬戸内寂聴／寂庵の写経会／
写経の仕方／サガノサンガに集う人々／鼎談 お写経すると
心が落ち着きますへ吉村千万子・吉村薫・瀬戸内寂聴／写経
の用度／写経の手本／写経の方式）諸寺の写経会紹介／西国
三十三札所／四国八十八札所／天台寺・寂聴写経手本『般若
心経』柳莫山書―巻末綴込

わたしの源氏物語

一九八九年（平成元年）七月一〇日発行 小学館 四六判

布装 上製カバー 四三〇頁 一五〇〇円（本体一四五六円）
装幀・横尾忠則

§わたしの源氏物語（出逢い／桐壺いじめ／初恋のひと藤
壺／雨夜の品定め／女さまさま／不良少年の自信／不倫妻／
夕顔の宿／可愛い女が永遠の女／紫式部の顔／紫式部のM的
要素／女はやはらかきがよし／コキユのあわれ／政略結婚／
正妻のプライド／ロリータ趣味／若紫／末摘花／貧しい貴
族／聡明な女の心の鬼／春の夜の誘惑／花宴の再会／老女の
コケットリー／とんだ恋の鞘当て／六条御息所の性格の悲
劇／車争い／物の怪と加持祈禱／芥子の匂い／女君さらに起
きたまはぬ朝／新枕の陶酔／野宮の別れ／運命のかげり／の
がれられぬ黒髪の子／藤壺出家／怪しの男帯／不良娘の父親
の嘆き／ユルスナールの花散里／源氏物語の生活／須磨の配
所／明石の乙女／返り咲く人々／明石上の強い運／末摘花の
純真と鷹揚／六条御息所の遺言／逢坂の関のめぐり逢い／空
蟬出家／前斎宮入内の闇取引／朱雀院失恋／明石上洛／妻と
愛人の間／子別れの冬／春の愁い／出生の秘密ついに露頭／
息子の嫁を口説く父親／朝顔の斎院のプライド／親のふり見
て／男の夢のハレム六条院／夕顔の忘れ形見／玉鬘シンデレ
ラ物語／危険な関係／初春衣裳選び／養父の横恋慕／螢の光
で見える女／性ぬきの夫婦愛／紫式部の小説観／小説のいの
ち／近江の君の不幸／行幸見物／鳶に油揚げ、玉鬘の結婚／離
婚の悲劇／色事師の色の戒め／不幸の足音／夜離れの古女
房／朝帰りの夫の迎え方／焼けばっくに火が／六条院の栄

華の極み／明石の入道の退場／猫のひきあげた御簾の奥に／身代わり猫／この世はかばかりと／女楽花見立て／衆上発病／夫のいぬ間の不倫／密通の後／紫上の死と蘇生／コキユの嘆き／瀧月夜の出家／悲恋に殉じた貴公子の哀切／女三の宮の決断／真面目亭主の恋／父親の好色を反面教師として／秋好中宮の悲しみ／恋下手な夫の朝帰り／夫の浮気による家庭の危機／浮気の行方／恩讐の彼方に／紫上の死／残された夫／光消えはてようとして／寂庵対談・ゲスト（大庭みな子）紫式部の眼）参考・源氏物語系図／寝殿造復原図／六条院復原図

寂庵こよみ

一九八九年（平成元年）九月七日発行 中央公論社 四六判
厚紙装 カバー 二八二頁 一〇〇〇円（本体・九七一円）
カバー画牧進「月下美人」（部分）本文写真・南浦邦仁・勝山泰佑・土井武

§寂庵こよみ（寂庵の娘たち／石の声／ニューフェース／同窓会／女たち／花供養／師走／七種籠／ものの芽／ある証言／まんさく／春の雪と雛／梅に驚／結婚通知／さくら、さくら／岡本一平の句碑／結婚式／へんろ行／蛍と幻の花／忘れないで／大回りお供／マルのお産／年寄の冷水／地藏盆／姫百合観音／人の命／五台山巡礼／辛抱／岩国行／柿の実と座禅／奉仕／新玉の年たちかえる／声の年賀状／新聞発行／再会／ボクの名はペペ／八葉山天台寺／天台寺詣で／寛子夫人の若さ／牡丹／誕生日／なぜ老いぬか／昔取った杵柄／老

青春―田村ふきさんのこと／桔梗の別れ／天の半分を支える女たち／天台寺の夏／月山まつり／旅立ちの前／敦煌の手相見／サガノ塾今昔／田村俊子とわたし／紅葉燃ゆ／六地藏と雪だるま／師走歳時記／生きてあらんこと、今日ばかり／良友／奇蹟の生還／板谷波山の壺／ことばも流転する／晴れ女のなげき節／原発の恐怖その1／原発の恐怖その2／長寿の秘訣／忘れてはならないこと／帽子／やせる苦勞／コスモスの径／老いも愉し／医者をやさしき／武生と紫式部／紫式部の御膳／考えてみよう死刑廃止／末法の世／名前の不思議／生きる愉しみ／柳と夕焼けと富士／台湾での出逢い／失われた時の価値／聞こえない人たちの明るさ／沈丁花の匂う夜／雑誌「フェミナ」の生まれるまで／花散るころ／牡丹と筍／大荷の性／たのしい老い方／緑の国東巡礼の旅）

寂聴 愛のたより

一九八九年（平成元年）九月一五日発行 海竜社 四六判
厚紙装 上製カバー 二一四頁 一二〇〇円（本体一一六五円）ブックデザイン・勝井三雄 写真・斎藤さだむ

§寂聴愛のたより（第1章心をひらく：捨てはてた後に／聖書とお経の間／師のまなざし／木の中の仏さま／辻説法／大廻りのお供／今、なぜ、古寺めぐりか／天台寺との仏縁／不滅の法灯／第2章愛するということ：忘己利他／代受苦／渴愛と慈悲／虹のかけ橋／花岡菩薩／ポータラカ／第3章妻たちへ：妻族よ驕るなかれ／ぜいたくと見栄／欲望という美德／ボーヴォワールの赤いツメ／女の峠道／身の上相談／男

らしきとは／単身赴任の不自然さ／第4章生かされて生きる
：花のした／生死のことわり／老いと死について／老人よ誇
りを持て／生々流転／野ざらしを／橋／若者の未来に／命の
重さ／平和への祈り／第5章知恵への道：知恵への道／真の
教育／可能性の芽を育てる／生涯学習について／九十歳の初
坐禅／わたしと俳句）初出一覧

寂聴観音経〈愛とは〉

一九九〇年（平成二年）七月二五日発行 中央公論社 四六
判 厚紙装 上製カバー オビ 二五五頁 一一〇〇円（本
体一〇六八円） カバー画・奥村土牛「蓮」（山種美術館蔵）
本文写真・南浦邦仁 勝山泰佑

§寂聴観音経（分かりやすくするために／一 観音経〈漢訳
とその訳〉／二 慈悲の観音―観世音菩薩と「観音経」／三
信と実践―信ずること／四 一心称名―皆得解脱／五 七
難―人生の七つの苦難／六 三毒―貪・瞋・痴／七 二求章
―智恵と慈悲／八 三十三の化身―而為說法／九 三十三の
化身へつづき―救いの示現／十 瓔珞章―自在神力／十一
偈―念彼観音力／十二 偈へつづき―福聚海無量）

瀬戸内寂聴 瀬戸内晴美 わが性と生

一九九〇年（平成二年）八月二五日発行 新潮社 四六判
厚紙装 上製カバー オビ 二二〇頁 一一五〇円（本体一
一一七円）

§わが性と生（瀬戸内寂聴より瀬戸内晴美さんへ／瀬戸内晴
美より瀬戸内寂聴さまへ／寂聴から晴美さんへ／晴美より寂

聴さまへ／寂聴より晴美さんへ／晴美より寂聴さまへ／寂
聴より晴美さんへ／晴美より寂聴さまへ／寂聴より晴美さん
へ／晴美より寂聴さまへ／寂聴より晴美さんへ／晴美より寂
聴さまへ／寂聴より晴美さまへ／晴美より寂聴さまへ／寂聴
より晴美さまへ／晴美より寂聴さまへ／寂聴より晴美さん
へ／晴美より寂聴さまへ／寂聴より晴美さんへ／晴美より寂
聴さまへ／寂聴より晴美さんへ／晴美より寂聴さまへ／寂聴
より晴美さんへ／晴美より寂聴さまへ／あとがきにかえて―
寂聴より晴美さんへ／晴美より寂聴さまへ）

寂聴つれづれ草子

一九九一年（平成三年）三月三〇日発行 朝日新聞社 四六
判 厚紙装 カバー 二七〇頁 一一〇〇円（本体一〇六八
円） 装幀・司修 カット・菩提樹の葉

§寂聴つれづれ草子（序段 ものぐるほしく／一段 あらま
ほしい身分／二段 色ごのみ／三段 妻はもつな／四段 命
長ければ恥多し／五段 ひとり酒／六段 酒談義／七段 四
季の移ろい／八段 結婚について／九段 いい女の条件／十
段 名利のむなしさ／十一段 口は禍いのもと／十二段 嘘
つきも才のうち／十三段 万物は流転するものを／十四段
住居について／十五段 理想の家作り／十六段 「一言芳談」
の教え／十七段 双ヶ丘長泉寺／十八段 木の上で眠る男／
十九段 閑居のよろこび／二十段 吉凶は日によらず／二十
一段 金銭について／二十二段 百日の鯉／二十三段 己れ
を知れ／二十四段 猫また／二十五段 身の程を知り争う

な／二十六段 命は人を待つものかは／二十七段 知的必需
技術と生活必需品／二十八段 花は盛りに見るものかは／二
十九段 「余情」／三十段 深く立ち入るべからず／三十一段
死後へのはからい／三十二段 死期はついでを待たず／三十
三段 心はかたちから／三十四段 物に誇ることなかれ／三
十五段 名人になる秘訣と老人の芸／三十六段 阮籍の青い
眼／三十七段 京都人の言葉と心／三十八段 仁和寺の法
師／三十九段 若者とお年寄り／四十段 悪友善友／四十一
段 兼好の女性観／四十二段 証空上人と明恵上人／四十三
段 人相について／四十四段 色欲の魅力、女の髪の毛／
四十五段 寸陰を惜しむべし／四十六段 大事を急ぐには／
四十七段 達人の眼／四十八段 捨ててこそ／四十九段 人
の想いはみな妄想／五十段 仏はいかなるものか／＊わたし
の「徒然草」

生きるよろこび

一九九一年(平成三年) 七月二〇日発行 講談社 四六判
厚紙装 カバー 二〇六頁 一〇〇〇円(本体九七一円) 装
幀・山岸義明 写真・大倉舜二
§生きるよろこび (忘己利他／犀の角のように／天台寺住職
となる／サガノ・サンガ／天台寺晋山式／仏は如何なるもの
にか候ふらん／天台寺の夏／求法の情熱 ふたたびのシルク
ロード 1／求法の情熱 ふたたびのシルクロード 2／こ
の世は美しい／ゆるされてある日々／仏陀の国へ／神父さま
の話／活力の秘密／仏を刻む／願文と法灯／旧友／私の相談

室／女人成仏／サマリヤ人と芭蕉／みこころのままに／猫談
義／雪清浄／なぜ冤罪か／切り祈りつつ／生かされている
命／いのちの重さ／緑の国東巡礼の旅／自由を彼等に／驕る
平氏は久しからず／幸福な晩年／橋の話／桃源郷への夢／弔
辞／餅つき／不思議な力／良寛忌／ある老青春／陰徳／光太
郎の小屋と巡礼路／一身弁じ難く、衆力成じ易し／石仏有
縁／孔子のふるさと曲阜／美しい死／サッチャーと房枝／逝
く年に／花供養／寂窯初窯開き／雪の日／道貧にして人を愁
殺す

孤独を生きる

一九九一年(平成三年) 一〇月三〇日発行 光文社 B40判
厚紙装 カバー 二五四頁 八五〇円(本体八二五円) カ
バー装訂・長友啓典

§(はじめに／第一夜 孤独とは／第二夜 孤独との出逢
い／第三夜 愛の中の孤独／第四夜 マイホームの中の孤
独／第五夜 失った愛の中の孤独／第六夜 男の背中の孤
独／第七夜 未亡人の孤独／第八夜 愛人の孤独／第九夜
別れなくても孤独／ある夜の手紙／第十夜 空閨の孤独／第
十一夜 男の方が孤独／第十二夜 老いの孤独／第十三夜
孤独を生きる)

寂聴イラクをゆく 写真 芳賀明夫

一九九一年(平成三年) 一二月一〇日発行 (株)スピーチ・パ
ルーン 一五・三×二〇・七 厚紙装 上製カバー オビ一
三四頁 一三〇〇円(本体一二六二円) 題字／章タイトル・

石ノ森章太郎 ブックデザイン・森嶋則子 編集・北川浩二
アートディレクション・原孝夫

§寂聴イラクをゆく(はじめに／行動日記／第一章正義と悪の曖昧さ／イラクはこんな国：／第二章薬が届かないバグダッドでの四日間―晴れない「暗いわだかまり」／遺書を書き：命がけの覚悟／五万八千ドル分の薬がそろった！／日本は我々を裏切った……／お金はただの紙か石ころのようなもの……／中世にもどってしまったバグダッド／バグダッドからの手紙／国連安保理決議とは？／第三章陽気さの中に見え隠れする戦争の爪跡へ対談・芳賀明夫／浄財と薬を持って：／ラマダーン明けのお茶の最中に―／大空爆後のバグダッドの街で／貧しい食事とケロイドの子どもたち／皮肉な戦争貢献をした日本／ボランティアの続出を願いつつ……) あとがきにかえて一九九一・八・十六――主な市民ボランティア・リスト 初出一覧

愛のまわりに

一九九二年(平成四年) 二月一日発行 小学館 B40判
厚紙装 カバー 三一八頁 一一〇〇円(本体一〇六八円)
題字・榊莫山 装丁・長友啓典+K₂ 本文カット・福山小夜
本文レイアウト・タイプフェイス
§愛のまわりに(第1章 女らしさ、男らしさ／第2章 結婚を考える時／第3章 家族の価値／第4章 素敵な人たち／第5章 自分を大切に／あとがき)

あきらめない人生(寂聴茶話)

一九九二年(平成四年) 六月一日発行 小学館 B40判
厚紙装 カバー 三一八頁 一一〇〇円(本体一〇六八円)
装幀・菊地信義 本文カット・富士原桃子
§あきらめない人生(第一章 女の魅力―才能を開花させる喜び／第二章 愛とセックス―性愛は生のエネルギー／第三章 花のいのち 人のいのち―美しく穏やかに生き延びる／第四章 寂聴微笑仏―指先から湧き出る土仏／第五章 華やかな老い―独りで死んでゆく寂しさ／第六章 旅路はるか―さらなる感動をもとめて／あとがき)

人が好き(私の履歴書)

一九九二年(平成四年) 七月二四日発行 日本経済新聞社
四六判 厚紙装 カバー 二八一頁 一三〇〇円(本体一二六二円) 装画・装幀・写真レイアウト・横尾忠則
§第一部 私の履歴書(海賊の末裔か／ぐうたら祖父の血／バスコントロール／押しかけ入園／九官鳥の嫁入り／新町尋常小学校／乱読のたまもの／紀元は二千六百年／憧れの美少女／見合結婚／折紙つき良妻／范媽と春寧／後世あざむく写真／夫の現地応召／就職と終戦／天津塘沽貨物廠／不倫の恋／清潔な不倫の行方／着たきり雀の家出／無能編集者／鬼になる／零号という女／「子宮作家」のレットル／「夏の終り」と「女徳」／書き魔の業苦／文士劇の迷優たち／「京まんだら」のため祇園通い／烈しい生と美しい死を／出家の理由／出離者は寂なり／最後の憧れ) 第二部 わが文学の周辺

(わが文学の周辺／処女作のころ／黒髪／名前のいのち／ゆるされて生きる／人間の地獄／尼僧のおしゃれ／仏の贈り物／嵯峨野へ／初のおけ／雪大文字／しゃりこうべ／真砂町の先生／華やかなる死／平林さんの草履／豪華メニユー／合せ鏡／佐藤春夫氏のこと／黒い雨傘／愕いた声／バックスは惑星にのって／ちりめんじゃこに始まる／なつかしい人／ガールフレンドの弁／エメラルドと川端夫妻／モジャイスキー号の癩癩／悪魔の棲む男／朝のコーヒー／黒い顔／井上光晴さんの死)

寂庵まんだら

一九九三年(平成五年) 十一月二〇日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 カバー 二七四頁 一三〇〇円(本体一二六二円) カバー画・村井正誠「人」 装幀・渡辺和雄 本文写真・勝山泰佑・芳賀明夫・熊瀬川紀・峯岸雅昭・胡田俊一
 §寂庵まんだら(I おりにふれて/II ひと/III 天台寺)
 寂聴生きる知恵へ法句経を読む

一九九三年(平成五年) 十一月二七日発行 海竜社 一一・五×二〇・五 厚紙装 カバー 二〇六頁 一〇〇〇円(本体九七一円) 装丁・勝井三雄 カバー・寂聴作土仏「弥勒菩薩」「誕生仏」「天上天下唯我独尊」表紙・寂聴作土仏「お釈迦さま」／「観音」 総扉・寂聴作土仏「ちぎう」
 §寂聴生きる知恵(はじめに／生と死／愛と欲／賢い人と愚かな人／善と悪)

寂聴古寺巡礼

一九九四年(平成六年) 二月一四日発行 平凡社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二四四頁 一三〇〇円(本体一二六二円) 装幀・菊地信義 写真・竹内敏信

§寂聴古寺巡礼(神護寺／常照皇寺／清涼寺／天龍寺／仁和寺／泉涌寺／黒谷と真如堂／永観堂／三千院／平等院／秋篠寺／薬師寺／唐招提寺／橘寺・岡寺／延暦寺／三井寺／石山寺／石塔寺／渡岸寺「向源寺」／寂聴古寺巡礼ガイド) 初出一覧

歩く源氏物語

一九九四年(平成六年) 九月二九日発行 講談社 一二×一七・五 紙装 カバー 二〇五頁 一二〇〇円(本体一一六五円) 装幀・レイアウト・辻村益朗

§歩く源氏物語(写真と地図／物語という旅への誘い／盧山寺 紫式部邸宅址／琵琶湖／高島三尾里／塩津／逢坂関跡／石山寺／武生／京都(東寺／羅城門址／西寺址／朱雀門址／朱雀門址碑／大極殿址／神泉苑／平安神宮／京都御所／夕顔の宿跡／鳥辺野／河原院址／三条宮址／京都文化博物館／東三条院址／閑院内裏址／二条院址／鞍馬寺／大学寮址)／嵯峨野(仁和寺／野宮神社／大堰川畔／清涼寺)／小野の里／初瀬

寂聴日めくり

一九九四年(平成六年) 一二月七日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 上製カバー 三六六頁 一三五〇円(本体一三三

一一円) カバー写真「寂聴土仏」 装幀・間村俊一

§寂聴日めくり(一月一日〜十二月三十一日まで)

寂聴草子

一九九五年(平成七年)一月一日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 カバー 三三六頁 一四〇〇円(本体一三五九円) 装幀・岡村俊一 装画・ネモト円筆

§寂聴草子(新しい年に/阪神大震災/オウム真理教事件のこと/エイズとの共存のために/知らない恥―徒軍慰安婦たちのこと/天台寺にて/『源氏物語』/忘れられぬ人々/仏教/京の風物/旅をする/出会い/浮世草子/ゆく年に)

道堂々(みちどうどう)

一九九五年(平成七年)二月一五日発行 日本放送出版協会 B40判 厚紙装 カバー 二二三頁 一二〇〇円(本体一六五円) 装幀・蟹江征治 協力・比叡山延暦寺・山田能裕・毎日新聞社

§法話でつづるお座主の一生/お座主に聞く「人生と仏教」(山田恵諦・瀬戸内寂聴)/対談「お座主の思い出」(山田弥生・瀬戸内寂聴)/道堂々あとがきにかえて

恋の旅路ヘロマンチックコレクション

一九九五年(平成七年)七月一〇日発行 朝日新聞社 一四・四×一二・二 紙装 カバー 一三四頁 一三〇〇円 造本・坂川事務所 写真・稲越功一
§恋の旅路(ラストシーン/海峡/はるかなり/恋の路)/出典

与える愛に生きてへ先達の教え

一九九五年(平成七年)二月二〇日発行 小学館 B40判 厚紙装 カバー オビ 二〇六頁 一〇〇〇円(本体九七一円) 編集・佐山辰夫 カット・富士原桃子 装丁・菊地信義

§与える愛に生きて(兼好/道元/最澄/はるかな道を)

いのち発見

一九九六年(平成八年)四月二六日発行 講談社 一五・五×二一・五 厚紙装 カバー オビ 二二三頁 一八〇〇円(本体一七四八円)

§いのち発見(巻頭言 いのち発見/天台寺復興十年の歩み/晴美・寂聴 思い出のアルバム/対談へ五木寛之・瀬戸内寂聴)死ぬために生きる/法話 仏心を磨く/法話/往還/例大祭/寂聴人生相談(第一部)夫婦・不倫・性・男女の「あり方」を考えるための30のQ&A/俳人・黒田杏子さんが選ぶ寂聴秀句/寂庵だより百号の歳月/寂聴住職秘話1/「花芯」から「白道」まで厳選30冊へ自薦作品紹介/寂聴住職秘話2/修正会/住職お気に入りの御山の御馳走/寂聴手作りギャラリー/短篇小説 鱗/寂聴住職秘話3/寂聴人生相談(第二部)病・死・宗教―自分の「生き方」を見つめるための35のQ&A/寂聴住職秘話4/参詣ガイド・天台寺へのご案内/原寸手本つき・寂聴指南 自宅でできるやさしい写経/寂聴住職秘話5/前略、天台寺住職寂聴さま/天台寺晋山十年譜/あとがき/年譜/巻末付録 仏教のここが

知りたい―仏壇・お墓から日常仏事のトラブルまで別紙)

わたしの宇野千代

一九九六年(平成八年)九月七日発行 中央公論社 四六判
厚紙装 上製カバー オビ 二七〇頁 一二〇〇円(本体一
一六五円) 画・北原武夫による「宇野千代像」 装幀・間
村俊一 カバー背・裏写真 山梨県立文学館「宇野千代の世
界」図録より

§わたしの宇野千代(I千代観音/晩年のかがやき/晩年/
作家の年齢/岩国行/柿の実と座禅/九十歳の初座禅/声の
年賀状/生きる愉しみ/今兄弟と美女たち/行年/宇野千代
著『刺す』/宇野千代著『悪徳もまた』/永遠の命/II私は幸
福 宇野千代展/宇野千代さんのこと/宇野千代さん九十五
歳の仰天人生/III天衣無縫な愛情過多/おとこと文学と/こ
んな身上相談をしてほしかった/宇野千代の永遠 山田詠美
氏と/宇野千代が生きていた昭和文壇 聞き手・嶋中鵬二/
IV二股かけてどこが悪いか/骨の髄まで小説家/宇野千代さ
んとの半世紀/初荷の馬/弔辞) 初出一覧

無常を生きる<寂聴随想>

一九九六年(平成八年)十一月八日発行 講談社 四六判
厚紙装 上製カバー オビ 二四四頁 本体一二六二円+消
費税 装幀・山岸義明

§無常を生きる(嵯峨野から―終の栖/今東光師十七回忌/
年齢の数え方/家族について/着物の似あった女/墓につい
て/超能力や霊視能力について/慈覚大師円仁とライシャワ

―大使/宇宙時代/懺悔滅罪の行/仏の耳/ハルモニたちの
来庵/朗報/地藏盆/甘えるな/女形の腰紐/もういくつ寝
たらお正月/若菜/人を不幸にする宗教の存在/絶望の中に
希望の光が/隣りの席の老詩人/十年という歲月/地藏と観
音/鉾さし/愛宕街道の燈籠絵/忘れてならないこと―阪神
大震災に/バザーの顛末/忘れていた他者の痛み/オウムさ
まざま―布施/オウムから私への贈り物/妖怪の犠牲者/麻
原初公判/オウム裁判の危惧/エイズのまわり―エイズと政
治/『愛死』を書いて/隠す罪見せる恥/仏に悪心ありや/
あの日この日―機械オンチ/無常と携帯電話/やせるクリー
ムとダンベル/顔コンプレックス/臨終行儀/縁者たち―沈
鐘/なつかしい人々/岡本太郎と女性たち/川端康成と岡本
太郎/源氏物語鉢かつぎ/捨てはててきと/花と石/ずるい
人が一番大切な人になるまで)

わたしの樋口一葉

一九九六年(平成八年)十一月一〇日発行 小学館 四六判
厚紙装 カバー 二七一頁 一五〇〇円(本体一四五六円)
編集・佐山辰夫 装丁・菊地信義

§わたしの樋口一葉 炎凍る<樋口一葉の恋>(作家の幸福と
は/恋道中/江戸のふたり/八丁堀同心/なつ誕生/赤毛の
少女/渋谷三郎/美登利と一葉/許婚者/晴着/背信/菊坂
の家/半井桃水/若葉かげ/『薺の鶯』/三宅花圃/よもぎ
ふ/近く夏/片恋/日記の謎/雪の日/処女作『闇桜』/醜
聞/花開くとき/エッセイ1一葉の謎/エッセイ2一葉の

書／対談―一葉の町を歩く (VS 前田愛)

うらむらさき『裏紫』をうけて (エッセイ3『うらむらさき』と幸田弘子／対談2『うらむらさき』を書きつくまで (VS 幸田弘子) あとがき初出一覧)

つれながりせばなかなかへ妻をめぐる文豪と詩人の恋の葛藤

一九九七年 (平成九年) 四月七日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 上製カバー 二〇二頁 一一〇〇円＋税 装幀・間村俊一

§ (一) つれながりせばなかなか／二我といふ人の心は／三 ああ、青春の日よ／四「影」／五話をこわしたのは、このぼく なんだよ／対談 愛と芸術の軌跡 文豪と一つ屋根の下 谷崎松子・瀬戸内寂聴／対談「痴人の愛」のモデルと言われて和嶋せい子・瀬戸内寂聴) 初出

孤高の人

一九九七年 (平成九年) 十一月二五日発行 筑摩書房 四六判 厚紙装 上製カバー 二五〇頁 本体価格一四〇〇円＋税 装幀・多田進 装画・松本孝志

§ 孤高の人 (写真／はじめて逢った頃／逃げた恋人／軽井沢の別荘／タクシー代／形見のきもの／もらいそこねた絵／ふるさと京都／俗物嫌い／猫の子／老人ホーム騒動／ビフテキ事件／俊子と芳子／草野心平さん爆発／赤い万年筆／黄瀬戸の水指／島原豪遊／再会／男友だち／羅の女／二つの卵／矢田津世子への手紙1／矢田津世子への手紙2／矢田津世子へ

の手紙3／平林たい子の「宮本百合子」／伸子と百合子I／伸子と百合子2／満たされぬもの／移りゆくもの／また逢う日まで) 連載

寂聴おしゃべり草子

一九九八年 (平成一〇年) 一月七日発行 中央公論社 四六判 厚紙装 上製カバー 二八九頁 本体一四〇〇円＋税 装画・大谷義智 装幀・間村俊一

§ 寂聴おしゃべり草子 (新しいことはいいことだ／西行と源氏物語のこと―はるかな道を／黒髪／清涼殿に坐って／源氏物語絵巻／おんな草子―美人薄命／マザー・テレサの顔施／マザー・テレサの残したもの／日記について／『風々雨々』序文／神戸小学生殺人事件―歴史の流れ／嫉はあつて当然／アングリマールの話／性教育より死の教育を／HIV訴訟のこと―エイズ問題、もっと関心を／エイズ患者の選挙当選／オウム真理教事件と裁判―布施／麻原初公判／人を不幸にする宗教の存在／オウム裁判の危惧／めぐりあい―愉しむ力／陽気な長寿／夫の贈り物／男友だち自慢／横尾忠則の行方／自在の魂感じさせる人／「聞きたい」と思わせる妙味／おしゃべり寂聴／甦りの奇跡／六十七歳の処女作／長生きも悪くない／ライバルあらわる／神秘なめぐりあい／おわかれ―衣を着て讃美歌を／かけ替えのない名人／死顔／二人の計報／満開の桜のもと春の悲しい別れ／時に想う―脱いだアホーに見るアホー／藍より青し／悪魔ちゃんとオチンチン／汚した者が掃除しろ／亡命者と報道／天の声／人のいのち／危機は

毎日／地獄にも仏／仏の教え——完全無垢な釈尊の理想像／まるまるとまるめ／殺生の器、一切を蓄うことを得ざれ／煩惱せざらんことを／長生きせんと思えば／もし人になうことを愛せずば／他人に利益を与えても／過去を追うな／かつての悪行を、のちの善行でつぐなう者は／得難くして移り易きは／諸悪莫作／一宗の繁昌と申すは／つるにゆく道／さかさまに行かぬ年月よ／しわがよるほくろがでける／願わくは此の功德を以て／妄念はもとより凡夫の地体なり／仏に悪心ありや／政治とは何なのか／和氣生百福／人生の目的は／人の命は／方法は無より生じ／言をば／天台寺の魅力／岡本太郎さんのこと——哀しみはもつとあとから／岡本太郎と女性たち／幽霊のパワー／かつば祭／岡本太郎の遺産を誇りに／岡本かの子を知るための三冊／川端康成と岡本太郎／なつかしい人々——朱泥の徳利／ノーベル賞の日／永遠の文学青年／こよなく女らしい人／私の木山捷平／私の昭和——赤い紙、白い壁／五十年忌の供物／作家人生に重き二つの文学賞／日々新たに——本を読まない亡国の兆し／「いい顔」の作品／お金を払って観るのが最高／思いやりを育む関係／生まれるのではなく作られる／思想や信念を伝える名説法／機械オンチ／書齋の写真／ニューヨーク失敗談／離婚ばやり／若い人が好き／落しもの、拾いもの／宮中の茶会／来たる年に——二十一世紀など見たくない／冬麗／流感正月／守れなかったことども

寂聴ほとけ徑——私の好きな寺

一九九八年（平成一〇年）三月一九日発行 マガジンハウス
一六・六×二二・七 紙装 上製カバー オビ 一一〇頁 本体一五〇〇円（税別） 写真・宮家秀明 土井武 中田昭 山本健三 地図製作・オゾングラフィックス 装幀・細山田光宣 米倉英弘 浜中亜紀子

§寂聴ほとけ徑（斑鳩の里の古刹：法隆寺／海龍王寺、奈良県）／寂聴尼の心の故郷：天台寺（岩手県）／羽衣伝説の湖畔の寺：石道寺／黒田観音寺／己高閣／世代閣（滋賀県）／東山三十六峰月輪山の寺：泉涌寺（京都府）／樋口一葉ゆかりの寺：法真寺（東京都）／一山これ曼陀羅：神護寺（京都府）／紫式部の生家跡：盧山寺（京都府）／慈悲の大仏と大伽藍：東大寺（奈良県）／七千株の牡丹の寺：長谷寺（奈良県）／京都三大門の寺：仁和寺（京都府）／三仏磨崖像の寺：浄瑠璃寺（岩船寺（京都府）／観音様と仲見世：浅草寺（東京都））この本は「楽」一九九六年七月号、一九九七年六月号まで連載されたものを加筆修正したものです。読者招待応募要項

寂聴あおぞら説法

一九九八年（平成一〇年）三月二五日発行 光文社 一二×一七・五 紙装 カバー オビ 二五七頁 本体九五二円＋税 写真・鈴木健一（カバー、帯、本文中）山口博之・世界フォト（表紙） 装丁・土屋正人 本文構成・黒木純一郎

§寂聴あおぞら説法（まえがき／第1話「忘れないで。人は寂しきで死ぬこともあるのです」／第2話「愛には、尽くす愛

と渴く愛とがある」／第3話「心をやさしく、体を美しく、そのために嫉があります」／第4話「周りの人を幸せにするために、あなたは生まれてきたのよ」／第5話「恋人が欲しければ、まず自分を愛してあげなさい」／第6話「忘れる。ということと私たちは生きていられる」／第7話「心の中を愛で満たせば、人は苦しまなくてすみます」／第8話「あなたの仏様はほら、側にいるカレですよ」／第9話「幸せの早道は、今日はいいい日」と信じてることよ」／第10話「お盆にちなんで、地獄に落ちた母と欲張りの弟の話……」／第11話「申し分のない生活をしてなぜ虚しく感じるのでしょうか」／第12話「夫婦とは縁なのです。添い遂げてこそ美しい」／第13話「美しい、幸せなボケ方もあります」／第14話「女の理想の死に方ってわかりますか」初出／みちのく『天台寺』の歩き方
晴美と寂聴のすべて

一九九八年（平成一〇年）十一月三日発行 集英社 四六判 厚紙装 カバー オビ 四六一頁 一九〇〇円 装幀・日比野克彦 写真提供・勝山泰佑・講談社写真部・芸術新聞社・個人所有 年譜作製・長尾玲子

§瀬戸内晴美アルバム

続寂聴ほとけ徑―私の好きな寺―

一九九八年（平成一〇年）二月一七日発行 マガジンハウス 一六・八×二一・六 紙装 カバー 一一〇頁 一五〇〇円 写真・土井武 地図製作・オゾングラフィックス 装幀・細山田光宣 米倉英弘 浜中亜紀子

§続寂聴ほとけ徑（六道の辻に響く迎え鐘：珍皇寺／西福寺／六波羅密寺／京都府）／湖畔の里に美しきみ仏たち：多田幸寺／神照寺／滋賀県／古都・飛鳥のころ安らぐ寺：橘寺／岡寺／奈良県／鑑真和尚の望郷の想い：唐招提寺／奈良県／燃え立つような紅葉の海：高山寺／比叡山三塔十六谷の聖域：延暦寺／滋賀県／名物は奇祭「裸踊り」：法界寺／京都府／夜空に舞う美しき火の蝶：清涼寺／京都府／吉野桜の哀しみの歴史：金峯山寺／如意輪寺／奈良県／徳川三代が帰依した寺：寛永寺／東京都／「天狗伝説」の宿る名刹：鞍馬寺／京都府／嵯峨野の花浄土：寂庵（京都府）

いよよ華やぐへ上

一九九九年（平成一一年）三月二五日発行 新潮社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二九〇頁 一六〇〇円税別 装画・岡田嘉夫 装幀・新潮社装幀室

§いよよ華やぐ（初鏡／風花／寒紅／樹氷／雪女／春隣／春雷／春愁／うこん桜／菜種梅雨／かげろう／桐の花／紫陽花／螢／花火）

いよよ華やぐへ下

一九九九年（平成一一年）三月二五日発行 新潮社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二七四頁 本体一六〇〇円税別 装画・岡田嘉夫 装幀・新潮社装幀室

§いよよ華やぐ下（夜光虫／銀河／夏帯／空蟬／緑蔭／秋扇／花野／野分／秋拾／無月／枇杷の花／冬野）

わたしの源氏物語〈新装愛蔵版〉

一九九九年(平成十一年)六月一日発行 小学館 一五・二×二一・七 厚紙装 上製カバー 五一〇頁 二八〇〇円十税 装幀・菊地信義

わたし源氏物語(出逢い/桐壺いじめ/初恋のひと藤壺/雨夜の品定め/女さまさま/不良少年の自信/不倫妻/夕顔の宿/可愛い女が永遠の女/紫式部の顔/紫式部のM的要素/女はやはらかきがよし/コキユのあわれ/政略結婚/正妻のプライド/ロリータ趣味/若紫/末摘花/貧しい貴族/聡明な女の心の鬼/春の夜の誘惑/花宴の再会/老女のコケットリー/とんだ恋の鞘当て/六条御息所の性格の悲劇/車争い/物の怪と加持祈禱/芥子の匂い/女君さらに起きたまはぬ朝/新枕の陶酔/野宮の別れ/運命のかげり/のがれられぬ黒髪/罪/藤壺出家/怪しの男帯/不良娘の父親の嘆き/ユルスナールの花散里/源氏物語の生活/須磨の配所/明石の乙女/返り咲く人々/明石の君の強い運/末摘花の純真と応揚/六条御息所の遺言/逢坂の関のめぐり逢い/空蟬出家/前斎宮入内の闇取引/朱雀院失恋/明石の君上洛/妻と愛人の間/子別れの冬/春の愁い/出生の秘密ついに露頭/息子の嫁を口説く父親/朝顔の斎院のプライド/親のふり見て/男の夢のハレム六条院/夕顔の忘れ形見/玉鬘シンデレラ物語/危険な関係/初春衣裳選び/養父の横恋慕/蛍の光で見る女/性ぬきの夫婦愛/紫式部の小説観/小説のいのち/近江の君の不幸/野分の朝の覗き見/行幸見

物/鳶に油揚げ、玉鬘の結婚/離婚の悲劇/色事師の色の戒め/不幸の足音/夜離れの古女房/朝帰りの夫の迎え方/焼けぼっくりに火が/六条院の栄華の極み/明石の入道の退場/猫のひきあげた御簾の奥に/身代わり猫/この世はかばかりと/女樂花見立て/紫上発病/夫のいぬ間の不倫/密通の後/紫上の死と蘇生/コキユの嘆き/瀧月夜の出家/悲恋に殉じた貴公子の哀切/女三の宮の決断/真面目亭主の恋/父親の好色を反面教師として/秋好中宮の悲しみ/恋下手な夫の朝帰り/夫の浮気による家庭の危機/浮気の行方/恩讐の彼方に/紫上の死/残された夫/光消えはてようとして/あとがき/さくいん)

さよなら世紀末

一九九九年(平成十一年)九月七日発行 中央公論新社 四六判 厚紙装 カバー オビ 三二四頁 一五〇〇円十税 装画・杉田洋 装幀・間村俊一
 §知らぬ月日/法臘二十六 生も死も一如の感/世紀末の地球/二十一世紀を前にして/脳死移植をどう考えるか/生かされて会う幸/出会い/天台寺から/わかれ/生きるために/さよなら世紀末

三、共著・対談

恐怖の裁判〈徳島ラジオ商殺し事件〉 瀬戸内晴美 富士
茂子

一九七一年(昭和四十六年)十一月一日発行 読売新聞社 四
六判 厚紙装 カバー 二二三頁 五〇〇円 装丁・松野勲
金子智恵

§恐怖の裁判(写真/序文/彼女の場合—暁の惨劇/祭ばやし/茨の門/獄窓の四季/命あるかぎり—富士茂子の獄中日記/茂子の手記/あとがき)

第三版には序文(第三版によせて)あとがき(再版)が入っている

古寺巡礼京都 三千院 水谷教章 瀬戸内寂聴 近藤豊

宮島新一 浅野喜一 監修・井上靖・塚本善隆

一九七七年(昭和五十二年)九月二〇日発行 淡交社 一八・
八×二五・四 布装 カバー 一四六頁 二八〇〇円 見返
し・竹村俊則 装本・岩松雅子

§古寺巡礼京都 三千院(カラー)(浅野喜市・小南勝弘)/往生極楽院(瀬戸内寂聴)/三千院と大原(水谷教章)/図版解説(建築・近藤豊/寺宝・宮島新一)/年表/三千院門跡歴代一覧/主要行事)

カラー嵯峨野の魅力 文・晴美 竹村俊則 写真・横山健
蔵

一九七七年(昭和五十二年)一〇月七日発行 淡交社 A5判

厚紙装 上製カバー 二二五頁 二〇〇〇円

§カラー嵯峨野の魅力(嵯峨の四季)

古寺巡礼京都 清涼寺 瀬戸内寂聴 鶴飼光順 近藤豊
清水善三 横山健蔵 監修・井上靖・塚本善隆

一九七八年(昭和五三年)二月二〇日発行 淡交社 一八・
八×二五・四 布装 カバー 一五七頁 二八〇〇円 写真
協力・小西晴美 見返し・竹村俊則 装本・岩松雅子

§古寺巡礼京都 清涼寺(カラー)(横山健蔵)/五台山清涼寺(瀬戸内寂聴)/清涼寺のみ仏・生身の証し 歴史と信仰(鶴飼光順)/図版解説(建築・近藤豊/寺宝・清水善三)/清涼寺年表/清涼寺主要行事)

生きるということ〈瀬戸内晴美対談集〉*

一九七八年(昭和五三年)十一月一〇日発行 皓星社 四六
判 厚紙装 カバー 二八三頁 一三〇〇円 ブック・デザ
イン・横尾忠則 写真・勝山泰佑

§写真/(1)作中人物に導かれて(遠藤周作)/生きるとい
うこと(今東光)/比叡をおりて(丹羽文雄)/禪の心(秦慧
玉)/現代と出家(門脇佳吉)/仏との出会い(梅原猛)/(2)
民俗と文学(五来重)/物書く女たち(久保田淳)/黒髪と落
飾(馬場あき子)/老年のエロス(和田芳恵)/(3)回想の
今東光(今日出海)/暗雲風雲而して晴朗(荒畑寒村)/あと
がき(瀬戸内晴美)

古寺巡礼近江4三井寺 瀬戸内寂聴 福家俊明 監修井上

靖 塚本善隆

一九八〇年(昭和五五年)九月八日発行 淡交社 一八・八×

二五・四 布装 上製カバー 一六八頁 三二〇〇円 見返

し・竹林俊則 装本・岩松雅子

§古寺巡礼近江4 三井寺(カラー写真(柴田秋介)／三井寺

〈瀬戸内寂聴〉／三井寺の歴史と信仰(福家俊明・星宮智光)／

一行山三井寺／二 御井寺から三井寺へ／三 智照大師円

珍／四 山寺両門の確執／五 平安時代の朝廷・貴族の三井

寺帰依／六 中古の三井寺の教学／七 三井修験と観音霊場

信仰／八 寺門の芸文／九 源氏の三井寺帰依／十 足利将

軍家の帰依／十一 中世寺門の教学と新仏教／十二 慶長の

再興／十三 江戸時代の教学と芸文／十四 近代の三井寺／

図版解説―建築(近藤豊)／寺宝(有賀祥隆・稲垣晋也・小野

勝年・河田貞・河原由雄・阪田宗彦・滋野敬淳・光森正士)／

三井寺年表)

あざやかな女たち(瀬戸内晴美対談集)*

一九八三年(昭和五八年)一月五日発行 中央公論社 四六

判 厚紙装 カバー 二八六頁 九八〇円 カバー画・三岸

節子「ブルゴーニュの麦畑」(部分)

§あざやかな女たち(写真／三岸節子:骨をかむ孤独／宮城

まり子:素晴らしいめぐり合い／吾妻徳穂:踊った、恋した、

生きた／片岡球子:日本画ひとすじ／谷崎松子:文豪と一つ

屋根の下／山本安英:断念が支えた舞台／堀文子:羞恥心に

ついて／あとがき)

対談者それぞれの写真入り

すばらしき女たち(瀬戸内晴美対談集)*

一九八三年(昭和五八年)七月二五日発行 中央公論社 四

六判 厚紙装 カバー 二九〇頁 九八〇円 カバー画・片

岡球子「本栖湖の富士」

§すばらしき女たち(写真／円地文子:見るべきものは見

つ／佐藤愛子:いつも火の玉／大庭みな子:ロマンティック

が身上／城夏子:ああ、遙かなるよき時代／佐多稲子:「女

たらし」について／曾野綾子:すべてを失うとき／宇野千代

:天衣無縫な愛情過多／あとがき)

対談者それぞれの写真入り

名作のなかの女たち(対談紀行) 瀬戸内晴美・前田愛

一九八四年(昭和五九年)一〇月三一日発行 角川書店 四

六判 厚紙装 カバー 三五六頁 一三〇〇円 装丁・岡村

元夫 口絵・本文写真・大谷勲 本文地図監修・前田愛

§名作のなかの女たち(写真十二枚／『たけくらべ』と樋口

一葉／『細雪』と谷崎潤一郎／『雁』と森鷗外／『草枕』と

夏目漱石／『斜陽』と太宰治／『放浪記』と林芙美子／『温

東綺譚』と永井荷風／『義血俠血―滝の白糸』と泉鏡花／『武

蔵野夫人』と大岡昇平／『夫婦善哉』と織田作之助／『雪国』

と川端康成／『京まんだら』と瀬戸内晴美／解題／読書のた

のしみ 瀬戸内晴美／場所の記憶 前田愛) 初出誌

仏教の事典 瀬戸内寂聴編著

一九八五年（昭和六〇年）一〇月三〇日発行 三省堂 B 40
判 紙装 上製カバー 二三八頁 一〇三〇円（本体一〇〇〇円）
カバー写真・原義郎 図版作成・新井トレス研究所
イラスト・西村和美

§ 仏教の事典（はじめに／日本の仏教〈瀬戸内寂聴〉／第一部
仏教と人生―釈尊の生涯／仏の教え／釈尊のことば／仏典の
ところ／日本の仏教／仏教と生活／第二部仏教と文化―信仰
様式／仏教と文芸／第三部仏教用語解説／第四部仏教語から
出た日常語／資料―釈尊の年譜／索引）

執筆者・石川教張 大島啓禎 古河良皓
※第四版による

比叡山延暦寺一二〇〇年 後藤親郎 瀬戸内寂聴 光永澄
道 武覚円

一九八六年（昭和六一年）五月二五日発行 二一・七×一六・
七 紙装 カバー 一一九頁 一三〇〇円（本体・一二六二
円） 装幀・平野甲賀 地図製作・笠原正夫・総合製図研究
所

§ 比叡山延暦寺一二〇〇年（東塔／西塔／横川（撮影・後藤
親郎）／「比叡」への道（瀬戸内寂聴）／千日回峰行（光永澄
道）／延暦寺の歴史（武覚円））

瀬戸内寂聴と男たち 〈瀬戸内寂聴対談集〉

一九八六年（昭和六一年）九月二五日発行 中央公論社 四
六判 厚紙装 カバー 二八四頁 一一〇〇円 カバー画・

熊谷守一「仏画下絵」（一九六〇年作）

§ 瀬戸内寂聴と男たち（写真／ビートたけし 芸人になろ
う／坂本龍一 愛人論／市川団十郎 待ってました、十二代
目／中沢新一 ニュー・アカやってます／連城三紀彦 愛の
夢をみつづける／高橋三千綱 輝くばかりのナイーブさ／鈴
木忠志 過疎村を芝居の広場に／米長邦雄 泥沼流人生浄
福／大島渚 女の事情、男の事情）

愛と命の淵に 瀬戸内寂聴・永田洋子往復書簡

一九八六年（昭和六一年）十一月三〇日発行 福武書店 B
6判 紙装 カバー 三三七頁 一二〇〇円 装丁・菊地信
義

§ 愛と命の淵に（永田洋子への手紙／一九八二年／編集者へ
の手紙／一九八三年／一九八四年／一九八五年／ある法廷／
わたしの立場／一九八六年／『私生きてます』序文／死刑の
判決を聴いて／付録／あとがき）

比叡山II そのところと行へ朝日カルチャーブックスー69

瀬戸内寂聴 梶山雄一 池山一切圓 佐藤哲英 光永澄道
西村岡紹 雲井昭善 葉上照澄 梅原猛

一九八六年（昭和六一年）二月二〇日発行 大阪書籍 一
二・八×一八・七 紙装 カバー 二七〇頁 一二〇〇円 図
版製作 森図房

§ 比叡山II（第一章 伝教大師伝：瀬戸内寂聴／第二章 最
澄の思想：梶山雄一／第三章 伝教大師のことば：池山一切
圓／第四章 叡山の教育：池山一切圓／第五章 天台大師の

思想：佐藤哲英／第六章 千日回峰行：光永澄道／第七章 叡山の浄土思想：西村岡紹／第八章 釈尊と比叡山―法のともしび：雲井昭善／第九章 比叡山のころろ―現代短歌を通してみる：葉上照澄／第十章 最澄と現代：梅原猛)

心を大切に生きる「人間の時代・心の時代三冊中の一」阿部喜夫との対談

一九八八年(昭和六三年)二月二〇日発行 (株)オリエントフ
アイナンス 一五・四×二五・五 紙装 三冊箱入 編集 講
談社 六二頁 非売品 造本・鈴木一誌十大竹左紀斗 撮
影・丸山勇 編集協力・グループ現代 手動印字・小野幀一
§心を大切に生きる(第一章これからは東北の時代です―天
台寺の住職となる／私たちは中興の祖／汚染されていない
町／第二章蟬ができていない―北京に憧れて／大正はサンド
イッチのハム／捕虜生活で得たもの／坐禅させなさい／修行
中に落伍する／第三章「忘己利他」を守る―オリエントを知
るために／遠い道を行く情熱／良いことをしなさい／生かし
ていただく／仏教は自由、平等、差別なし／第四章人間自身
を取り戻す―坊さんは金持ち?／「院殿居士」をもうらうには／
快樂だけではない／頭の中に心があるのでしょいか?)

寂聴の仏教入門 久保田展弘と共著

一九八八年(昭和六三年)一月二五日発行 講談社 四六判
厚紙装 カバー 二四二頁 一〇〇〇円 装幀・レイアウ
ト・山岸義明 写真提供・久保田展弘
§寂聴の仏教入門(一、身近かな仏教について知りたいこと

―いま、仏教ブーム?／仏壇・戒名について／先祖供養と神
さま仏さま／いろいろある仏教宗派とお経／お寺の発生と僧
服の色／死者のゆくえ／巡礼ブームとそのいわれ／ご真言の
意味、坐禅の意味／無宗教と死者への思い／仏教の生命観・
輪廻転生のとらえ方／仏さまの位、救いの道／歩くことの意
味、勧進帳の意味／お坊さんへの道、懺悔／二、お釈迦さま
の仏教から日本仏教へ―もつと仏教を易しく／霊の崇りと仏
教／お釈迦さまが気付いたこと、説いたこと／お釈迦さまの
出家と女性観／苦行から得た平等の思想／生命の肯定とご真
言／生命エネルギーを貰う／千日回峰行者のお加持／修行が
意味するもの／悩みは尽きない愛の問題／人間的魅力に満ち
たお釈迦さま／お釈迦さまは孤独な小説家?／お経の成立／
多くの経典・多くのブツダ／長い道のりをへて仏教が伝来し
て／アジアの仏教国はいま／日本仏教の神と仏)

幸せは急がないで〈愛の法話45〉 瀬戸内寂聴 青山俊董

村瀬明道 日野西徳明 近藤徹称 小笠原日凰 久我高照

小松智光

一九九二年(平成四年)四月二〇日発行 光文社 四六判

厚紙装 上製カバー オビ 二八六頁 一二六二円+税 装

丁・土屋正人 写真・高野博 宮地義之 溝縁ひろし 構成・

黒木純一郎

§幸せは急がないで(小松智光―第一話 心は巧みなる画師
の如し／第二話 樂しみて善に赴け慎みて悪にゆかざれ／第
三話 姦淫する者に四つの過あり／第四話 人を怒らば我も

また人の怒りを受けつべし／第五話 何ものか痛きに泣かぬ
 何人か命惜しまむ／第六話 それ人間に生まれたることは大
 いなる幸なり／久我高照／第七話 三毒―貪・瞋・痴／第八
 話 父母の恩衆生の恩国王の恩天地の恩／第九話 慈無良心
 悲無良心／小笠原日鳳／第十話 言葉で喋る人には耳で聞け
 心で喋る人には心で聞け／第十一話 父を怨むな兄を怨むな
 妻を責むるな子を罵るな／第十二話 月ゆがむにあらず波さ
 わぐなり／第十三話 口の中の斧／第十四話 悟りとは、小
 さくてもいい自分の花を咲かせることだ／第十五話 利益、
 衰、毀、譽、称、苦、楽八風吹けども動ぜず／近藤徹稱／第
 十六話 天上天下唯我独尊／第十七話 一水四見／第十八話
 のぼろう坂道一歩一歩もう一歩／第十九話 愚者にして己れ
 を愚なりと想うは己に賢なり／日野西徳明／第二十話 和顔
 愛語／第二十一話 傲慢と弊と懈怠は以てこの法を信じ難
 し／第二十二話 少欲知足／村瀬明道／第二十三話 自分の
 心と体をいとおしめ／第二十四話 衆生は本来仏なり／第二
 十五話 直心是道場歩歩是道場／青山俊董／第二十六話 花
 を弄すれば香り衣に満つ／第二十七話 母親は「カカさま」
 「ハハさま」と呼ばれたい／第二十八話 三つ子の魂百まで／
 第二十九話 生まれたときも裸なら死ぬるときも裸なり／第三
 十話 美しき人になりたく候／第三十一話 南無地獄大菩
 薩／第三十二話 恥ずべくんば明眼の人を恥ずべし／第三十
 三話 仏道には珍重の言葉あり不審の孝行あり／第三十四話
 泥多ければ仏大なり／第三十五話 見る角度を変えてみる遠

く離れて眺めてみる／第三十六話 この体鬼と仏とあい住め
 る／瀬戸内寂聴／第三十七話 生ぜしも独りなり死するも独
 りなり／第三十八話 「阿留辺幾夜宇和」／第三十九話 忘己
 利他慈悲之極／第四十話 愛別離苦怨憎会苦求不得苦五蘊盛
 苦／第四十一話 生者必滅会者定離／第四十二話 仏もむか
 しは凡夫なりわれらもついに仏なり／第四十三話 弾琴の
 喩／第四十四話 「渴愛」の悩み／第四十五話 愛すれば執
 す執すれば着す／対談 瀬戸内寂聴 青山俊董（愛するとは、
 信じるとは、やさしさとは、孤独とは、そして死ぬとは――）
 ※第一八版による

般若心経のころへとらわれない生き方を求めて 瀬戸
 内寂聴・梅原猛ほか

一九九二年（平成四年）七月二三日発行 プレジデント社
 四六判 厚紙装 上製カバー 装幀・上田晃郷

般若心経のころ（口絵写真／とらわれない心、とらわれ
 ない生き方―対談 瀬戸内寂聴・梅原猛／「色即是空」の教
 えとは何か―松原泰道／「二百七十六文字」に込められた仏
 の智慧―秋月龍珉／かくて『心経』、日本へ伝来す―紀野一
 義／空海の見た「仏教の真実」―福田亮成／親鸞、日蓮が選
 び捨てたもの―丸山照雄／日本人の心に生きる「二百七十六
 文字」―百瀬明治／心経流伝の謎―飯島太千雄）著者略歴／
 初出一覧

寂庵〈別巻〉 瀬戸内寂聴 井上隆雄

一九九六年（平成八年）一月二五日発行 淡交社 一五・三×

二〇・二 厚紙装 上製カバー 九四頁 二〇〇〇円 (本体
一九四二円) 装丁・加藤恒彦

§寂庵―京の古寺から (写真/寂庵の四季:井上隆雄/本文
寂庵だより:瀬戸内寂聴/撮影ノート:井上隆雄) 掲載写真
リスト/寂庵周辺地図/月例行事/初出一覧

利に惑うは愚かなり 紀野一義・水尾比呂志・井本農一・
三木卓と共著

一九九三年 (平成五年) 七月五日発行 KKベストセラーズ
B6判 厚紙装 カバー 二五五頁 一五〇〇円 (本体一四
五六円) 装幀・デザイン 谷村彰彦 写真協力・金沢文庫
宮内庁書陵部 真珠庵 京都国立博物館 芭蕉翁記念館 東
京国立博物館 本間美術館 桑名宗社春日神社

§利に惑うは愚なり (人間の修羅を眺めて世を捨てた兼好法
師)

仏教・エロスと救いへ瀬戸内寂聴VSひろさちや対談集

一九九三年 (平成五年) 一〇月七日発行 主婦の友社 B6
判 厚紙装 上製カバー 二一六頁 一六〇〇円 (本体一五
五三円) 撮影・溝縁ひろし 装丁・司修 本文中写真撮影・

則光代

§仏教・エロスと救い (第1部光り輝いているへ瀬戸内寂聴
師講演/第2部仏教の愛とエロスへ瀬戸内寂聴・ひろさちや
対談) 第1章釈迦と歩んだ女性たち―マザー夫人:子ども
は仏さまからの預かりもの/命の布施をし合う自然界/ヤソ
ーダラー:釈迦の出家に激怒した妻/苦行の果てに開けた生

命の哲学/マハーパジャーパーティー:出家をめぐる釈迦の女
性観/政治の論理より非暴力の坐禅/ウツパラヴァンナー:
欲びより苦しみの多い愛欲/生命を操作する食欲の思想/ヴ
エーデーヒー:身勝手な親への復讐/人生は苦なりという世
界観/母と子の命の絆/第2章生命と愛とエロス―青色青光、
黄色黄光:人間の幸せは自由であること/少欲知足の上での
精進/仏さまの子の智慧/仏さまへの道:心なき時代の尼さ
んブーム/出家と生天の思想/縁起の世界に生きる/生命と
愛とエロス:出家者は淫戒を守れ/禁欲も恋も生命を輝か
す/産むことの欲びと渴愛の苦しみ/いかなる生命も殺すな
かれ/第3部仏教におけるエロスへひろさちや講義ノート

京の茶室―瀬戸内寂聴さんと訪れる―名僧と語る茶の心

Ars books 7 撮影・林忠彦 林義勝

一九九三年 (平成五年) 一〇月一〇日発行 婦人画報社 一
四・八×二一・二 紙装 上製カバー 一二八頁 一六〇〇
円 (本体一五五三円) 取材協力・中村昌生 装丁・レイア
ウト・伊藤デザイン室 編集協力・中野トシ子

§京都の茶室―名僧と語る茶の心 (序文京の茶室/茶室紹介
―銀閣寺―東求堂・同仁斎・集芳軒/高台寺―傘亭・時雨亭/
大徳寺―聚光院・閑隠席/大徳寺―高桐院・松向軒/大徳寺
―孤蓬庵・忘筌/建仁寺―東陽坊/西芳寺・湘南亭/南禅寺
―金地院・八窓席/八幡市―松花堂/円山―西行庵・皆如庵/
妙心寺―桂春院・既白軒/仁和寺―遼廓亭/仁和寺―飛湊
亭/寂庵を訪ねて/茶室解説へ中村昌生)

十人十色「源氏」はおもしろい〈寂聴対談〉

一九九三年（平成五年）二月一〇日発行 小学館 B 6 版
厚紙装 上製カバー 二二二頁 一三〇〇円（本体一二六二円） 装丁・中山銀士＋山田英春

§十人十色源氏はおもしろい（丸谷才一の巻―千年をこえて響き合うもの／俵万智の巻―嫉妬は恋のエネルギー／清水好子の巻―女君の心情を解き明かす／大庭みな子の巻―紫式部の眼／秋山虔の巻―女房たちの役割／氷室冴子の巻―優柔不断な光源氏／橋本治の巻―光源氏の虚と実／五木寛之の巻―背後に漂う終末感／久保田淳の巻―古典を生きた／八瀧正治の巻―出家して初めて見えたこと／三島由紀夫・竹西寛子の巻―現代小説として読む／あとがき）

寂聴・猛の強く生きる心 梅原猛・瀬戸内寂聴〈対談〉

一九九四年（平成六年）二月一〇日発行 講談社 四六判厚紙装 上製カバー 二二二頁 一五〇〇円（本体一四五六円） 装幀・多田進 写真・三宅数 講談社写真部

§寂聴・猛の強く生きる心（序章未来に向けて創造的に生きてみよう：一―生き方を変える人は身近にいる／二―よい出会いが不安や迷いを払拭させる／三―許し合う親子関係を築こう／第1章現在を大切に生きる：一―作家の生き方、考え方／二―自分の転機はいつかを知る／三―作家は転機をどう乗り越えるか／四―家庭と教育のあり方を見直すことが先決／第2章「愛」と「生」の本質を見極める：一―古典を通して「愛」と「生」を考えてみる／二―時代は変わっても「生」

の本質は変わらない／第3章しっかりした死生観が人間を支える：一―来世の喪失は人間をダメにする／二―宗教は現代を救えるか／三―人類存亡の危機をはらむものに目を向けよ／第4章21世紀の文学をつくる：一―明治の作家と昭和の作家の違い／二―時代に残る文学をつくろう）

水墨画の巨匠第二巻 雪村 瀬戸内寂聴・林進

一九九五年（平成七年）五月一九日発行 講談社 厚紙装 三二〇頁 装幀・廣瀬郁 レイアウト・天野誠

§雪村同維（作品／燃え熾る画才―雪村の尽きざる人間への興味 瀬戸内寂聴／「この一枚」辛縲に蘭図 林進／雪村小伝―その画境の源を追って 林進／図版解説・林進／雪村年譜／図版目録）

京の古寺から別巻寂庵 瀬戸内寂聴・井上隆雄

一九九六年（平成八年）一月二五日発行 淡交社 二〇・〇×一五・三 厚紙装 カバー 九四頁 二〇〇〇円 装丁・加藤恒彦

§京の古寺から別巻寂庵（写真／寂庵の四季・井上隆雄／本文 寂庵だより・瀬戸内寂聴／撮影ノート 井上隆雄／掲載写真リスト／寂庵周辺地図／日例行事／JAKU・AN／初出一覧）

源氏物語の女性たちへNHK人間大学

一九九七年四月―六月期 教育テレビ―月曜日午後10：45
11：15 再放送―火曜日午後3：00―3：30
一九九七年（平成九年）四月一日発行 日本放送出版協会 一

四・七×二一 紙装 一六八頁 五三四円＋税 ブック・デザイン・菊地信義＋石田博美 表紙シンボル・マークⅡコロナⅡ『地球時代』『知の時代』 扉題字・榊莫山 口絵レイアウト・北原準之輔 図版作成・星川久美子／ノムラ 編集協力・一条まり (オフィス12)

文章修業 水上勉と共著 (対談)

一九九七年 (平成九年) 七月二五日発行 岩波書店 四六判 厚紙装 カバー オビ 二一〇頁 一五〇〇円＋税 装幀・多田進 版画・多田順

§文章修業 (まえがき―ふたりの暦／第一章 先人の径をたどって (同じ時代に生きてきた／悠々自適で遊戯三昧／最後のぜいたくな人／仕事に径を教えられる／小林秀雄さんのこと／里見弴さんのこと／この時間があるから)／第二章 長生きもいいな (浮名もうけ／郷愁の巻煙草／九十の恋／失恋と得恋／恋愛の究極)／第三章 野垂れ死に願望 (もうひとりの自分と呼んでくれる／禅宗と色事と問答／今東光さんと川端康成さん／小説家は嘘つき／みんな土に還る／野良犬として生きて) 第四章 物書きとしての出発 (はじめての投稿／編集者が書かせてくれる／芸道の世界／虚実ないませ／文学少女からの出発／語りの大家) 第五章 文章道を語る (文章のリズム／『源氏物語』を書く／文章のしんどさ／売れる売れない／何で書くのか／削いで削いで削ぎ落とす／小説はどうなるのか)

風のように炎のように 五木寛之 瀬戸内寂聴 対談 加藤唐九郎

一九九七年 (平成九年) 九月二〇日発行 風媒社 四六判 厚紙装 上製カバー 一七二頁 (本体一五〇〇円＋税) 装幀・深井猛 写真・大石孝 中川幸作 協力・唐九郎記念館 §風のように炎のように (Ⅱ瀬戸内寂聴―加藤唐九郎 芸術の炎を見つめてへ人生は未完成の積み重ね／芸術と恋愛／炎の魔／ピカソと魯山人／職人と芸術家／ロマンチックな時代) 人生『残照』の時間へ炎の窯で／鬼のすみか／「氷柱」のきびしさ／「残照」の碗 初出一覧

宇野千代 瀬戸内寂聴へ女性作家シリーズ4 監修 河野多恵子・大庭みな子・佐藤愛子・津村節子

一九九七年 (平成九年) 一〇月二七日発行 角川書店 四六判 厚紙装 上製カバー 四七二頁 発売記念特別定価 二二〇〇円 (税別) 平成九年一二月末日まで 本体二六〇〇円 (税別) カバー画・パウル・クレーへそ―中心の説教 装幀・松岡史恵

§瀬戸内寂聴 (鬼の栖／蘭を焼く) 作家ガイド「瀬戸内寂聴」及び略年譜・与那覇恵子付

生きた書いた愛したへ対談・日本文学よもやま話

一九九七年 (平成九年) 一二月一〇日発行 新潮社 四六判 厚紙装 上製カバー 二二〇頁 本体一四〇〇円 (税別) 装幀・宮山広明 装幀・新潮社装幀室

§生きた書いた愛した (文学は人生のゴシップだへ対談者)

河盛好蔵―井伏さんは女流文学が大嫌い／徳島で見た手相／昔の作家は最初から立派だった／文士の生活はよくなったか？／同級生・中野好夫君の思い出／菊池寛と永井荷風／パリでの青春時代／「新潮」の戦後の黄金時代のことなど／小説家は関西のほうがいい／阿佐ヶ谷会と志賀直哉／なぜ文学は衰退したか？／笑いこそ長寿の秘訣／恋と日本の小説／対談者／丸谷才一／樋口一葉はどんな教育を受けたか？／『源氏物語』にはレイプがいっぱい／一夫多妻制と和歌／中国文学と日本文学の決定的な違い／平安王朝は男女にとって理想的な時代か？／女人成仏の思想の大切さ／外来思想と日本人の関係／私が書いて踊る理由／対談者／萩原葉子―出版に年齢はない／円地文子の可愛らしさ／宇野千代のいた馬込村／『蓼麻の家』の頃／時代の犠牲者／文学は突っ切る勢いが大切だ／無垢な子供・森茉莉／平林たい子の九官鳥／急がないと／書いた、愛した、遊んだ九十年／対談者／里見弴―兄有島武郎の心中／苦楽会のこと／師、泉鏡花／島崎藤村、田山花袋との出会い／長命の姉弟／逗子の大杉栄のことなど／善心悪心／小杉天外の思い出／関東大震災と終戦直後／谷崎潤一郎との交友ほか／佐藤春夫と堀口大学／鏡花・秋声・犀星／志賀直哉との絶交／戦時中の近衛文磨／無について／あがき 初出誌

源氏物語の女性たちへNHK人間大学テキスト

一九九七年（平成九年）発行 日本放送出版協会 一四・七×
二一 紙装 一六八頁 扉題字・榊莫山 口絵レイアウト・

北原準之輔 図版作成・星川久美子／ノムラ 編集協力・一条まり（オフィス12）

『源氏物語の女性たち』（口絵写真／第一回 紫式部について／第二回 桐壺の更衣と藤壺の宮／第三回 紫の上／第四回 六条の御息所／第五回 夕顔／第六回 空蟬と末摘花／第七回 朧月夜の君／第八回 明石の君と玉鬘／第九回 女三の宮／第十回 雲居の雁と落葉の宮／第十一回 宇治の大君と中の君／第十三回 浮舟）

源氏物語絵詞 絵・石踊達哉 詞・瀬戸内寂聴

一九九八年（平成一〇年）三月三十一日発行 講談社 三〇・二×二八・五 布装 箱 オビ 一四二頁 本体九五〇〇円＋税 題字・石踊達哉 装丁・レイアウト・辻村益朗 冬帖の梗概・渡辺綾子

『源氏物語絵詞』（源氏物語と絵画／瀬戸内寂聴／桐壺／帚木／空蟬／夕顔／若紫／末摘花／紅葉賀／花宴／葵／賢木／花散里／須磨／明石／落標／蓬生／関屋／絵合／松風／薄雲／朝顔／乙女／玉鬘／初音／胡蝶／蛭／常夏／篝火／野分／行幸／藤袴／真木柱／梅枝／藤裏葉／若菜上／若菜下／柏木／横笛／鈴虫／夕霧／御法／幻／雲隠／匂宮／紅梅／竹河／橋姫／椎本／総角／早蕨／宿木／東屋／浮舟／蜻蛉／手習／夢浮橋／あがき／石踊達哉）作品リスト

わかれば『源氏』はおもしろいへ寂聴対談集

一九九八年（平成一〇年）九月二十九日発行 講談社 四六判 厚紙装 カバー 二三五頁 一五七五円（本体一五〇〇円）

装丁・辻村益朗

『千年前の「女」たち(暉峻康隆)』／二十世紀最後の『源氏物語』訳(永井路子)／今読んでも新鮮な魅力(橋本治)／恋愛に嫉妬はつきもの(柴門ふみ)／源氏、恋のまんだら(馬場あき子)／言葉と絵の競艶(石踊達哉)／「最古の長編小説」を全人格で読む(丸谷才一)／今も昔も恋こそ人生の原動力(俵万智)／永遠のラブ罗曼(林真理子・富田勲・篠田正浩)／初出誌一覧

源氏物語より「浮舟」

一九九八年(平成一〇年)十一月七日発行 トータルメディア開発研究所 二五×二五 紙装 上製カバー 八六頁
 『源氏物語より「浮舟」』(宇治と源氏物語・名誉館長―宇治市・源氏物語ミュージアム名誉館長瀬戸内寂聴―のことば／鼎談・「源氏物語」を通して日本文化をみる―瀬戸内寂聴・篠田正浩・中西進／イメーシ論・篠田正浩「源氏物語」を読む―源氏物語の普遍性／男女の愛／日本人と死生観／絵巻から映像へ／対談・「平成版源氏物語絵巻」の楽しみ方―篠田正浩・ホリ・ヒロシ／人形師ホリ・ヒロシ映像に舞う―作り人／衣装尽くし／人形舞／「浮舟」創作源氏物語映像美の創造―構想深淵なる此岸より…ロケハンからシナリオハンティングへ安久津和己氏インタビュー／撮影テスト遠巡から確信へ…重ねられた撮影実験／美術セット虚構から現実へ…垣間見の世界とファーストシーン設定へ池谷仙吉氏インタビュー／ホリ・ヒロシ撮影日記より1登場人物の陰影…髪の手一筋のふ

るえ／ホリ・ヒロシ撮影日記より2深まる物語…二体の人形を同時に／ホリ・ヒロシ撮影日記より3男女の情愛の諸相…四十七体の人形を一人で操る／デジタル合成重層する物語世界…虚美を越えて―バーチャルな絵巻世界を創出へ徳永徹三氏インタビュー／音楽とナレーション現代感覚の調べ…奏でられる様式美の世界へ湯浅譲二氏インタビュー／映像世界の導き手として)資料編1映像美の背景／資料編2シナリオ源氏物語より「浮舟」／ガイド宇治市・源氏物語ミュージアム

生と死の歳時記 斎藤新爾との共著 美しく生きるためのヒント

一九九九年(平成十一年)七月一日発行 法研 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二七九頁 本体一五〇〇円＋税 装幀・高林昭太 中扉デザイン・林健造

『生と死の歳時記(はじめに／いのち／旅と人生／日常／生あるもの／生と死を詠む／四季・二十四節気・七十二候表／生と死のキーワード／人名一覧)』

日本復活 稻森和夫・中坊公平との共著鼎談

一九九九年(平成十一年)七月一〇日発行 中央公論新社 四六判 上製カバー オビ 一四六頁 一二〇〇円＋税 装丁・間村俊一

『日本復活(プロフィール／出家の事情／「官」と「民」／「人間として」／足るを知る／オウム真理教／官邸突入事件／大消費を考える／食事五観文／病気には陽気で)写真 収録構成

寂庵法話集〈解説書〉

年月不明 日本通信教育連盟 一四・八×二一 紙装 解説
書企画・編集・(株)エニー 解説書デザイン・(株)スリーディー
大槻美穂 CD・カセットデザイン・(株)ワークスディ 土屋
伸生

§寂庵法話集(口絵/序文/般若心経/寂庵法話を聴くため
の基礎知識/第一巻出家について/第二巻修行について/第
三巻釈迦について/第四巻巡礼について/第五巻無常につい
て/第六巻彼岸・六波羅密について/第七巻愛について/第
八巻老いについて/第九巻死と墓について/第十巻祈りにつ
いて/第十一巻定命について/特別盤講演「生きる喜び」瀬
戸内寂聴年譜/寂庵へのご案内/あとがきに代へて―録音三
昧/参考資料一覧/索引

四、訳 書

現代語訳『とわずがたり』☆

一九七三年(昭和四八年)一月発行 河出書房新社

女子叫喚 瀬戸内晴美 訳者 李石奉

一九七七年(昭和五二年)四月二八日発行 民芸社 二一×

一〇・二 紙装 カバー 二一九頁 二〇〇〇円 装幀・千

鏡子

§燃えながら韓国語訳

女人源氏物語(一)

一九八八年(昭和六三年)一月一〇日発行 小学館 四六
判 布装 上製カバー 二八六頁 一二〇〇円 装画・加山
又造 装幀・後藤市三

§女人源氏物語(二)(桐壺更衣のかたる桐壺/鞠負命婦のか
たる光君/空蟬のかたる空蟬/夕顔の侍女右近のかたる夕
顔/夕顔の侍女右近のかたる撫子/藤壺の侍女弁の君のかた
るかがやく日の宮/藤壺の侍女弁の君のかたる藤壺/紫上の
祖母尼君、乳母の少納言のかたる若紫/葵の上のかたる葵/
六条御息所のかたる紫炎)寂庵対談「二」ゲスト俵万智 嫉
妬は恋のエネルギ―源

女人源氏物語(二)

一九八九年(平成元年)二月一〇日発行 小学館 四六判
布装 上製カバー 二九四頁 一二〇〇円 装画・加山又造
装幀・後藤市三

§女人源氏物語(三)(朧月夜のかたる朧月夜/朧月夜のかた
る恋闇/藤壺のかたる賢木/明石の尼君のかたる明石/紫上
のかたる紫/末摘花の侍女のかたる末摘花/六条御息所のか
たるみをつくし/明石上のかたる松風/藤壺の侍女王命婦の
かたる薄氷/夕顔の侍女右近のかたる初瀬)寂庵対談「二」
ゲスト清水好子 ときあかされた女君の心情

女人源氏物語(三)

一九八九年(平成元年)四月一〇日発行 小学館 四六判
布装 上製カバー 二七八頁 一二〇〇円 装画・加山又造

装幀・後藤市三

§ 女人源氏物語(三) (夕顔の侍女右近のかたる玉鬘／玉鬘のかたる螢／夕顔の侍女右近のかたる藤袴／近江の君のかたる常夏／明石上のかたる初音／紫上のかたる梅枝／夕霧の乳母宰相の君のかたる藤裏葉／紫上のかたる双華／女三の宮の乳母のかたる若葉／紫上のかたる女三の宮) 寂庵対談「三」ゲスト秋山虔 源氏研究のよき刺激・女人源氏

女人源氏物語(四)

一九八九年(平成元年) 六月一〇日発行 小学館 四六判
布装 上製カバー 二七八頁 一二三〇円(本体一一九四円)
装画・加山又造 装幀・後藤市三

§ 女人源氏物語(四) (女三の宮の侍女小侍徒のかたる柏木／女三の宮の侍女小侍徒のかたる葵草／女三の宮の侍女小侍徒のかたるひぐらし／朧月夜のかたる浮雲／女三の宮の侍女小侍徒のかたる春愁／女三の宮のかたる輪廻／落葉の宮の侍女小少将のかたる横笛／落葉の宮のかたる夕霧／雲居雁のかたる雲居雁／紫上のかたる萩の露) 寂庵対談「四」ゲスト橋本治 光源氏の虚と実をめぐって

女人源氏物語(五)

一九八九年(平成元年) 八月一〇日発行 小学館 四六判
布装 上製カバー 三〇二頁 一二三〇円(本体一一九四円)
装画・加山又造 装幀・後藤市三

§ 女人源氏物語(五) (光源氏の侍女中將の君のかたる幻／光源氏の侍女中納言のかたる夕映え／宇治の大君の侍女弁の君

のかたる橋姫／宇治の大君のかたる川波／宇治の大君のかたる総角／宇治の中の君のかたる宿木／二条院の中の君のかたる花の露／弁の尼のかたる浮舟／浮舟の母中將の君のかたる流星／浮舟のかたる夢浮橋) 寂庵対談「五」ゲスト丸谷才一 千年を経てひびき合う作家の想像力

瀬戸内寂聴 源氏物語「古典の旅」4

一九九〇年(平成二年) 二月二〇日発行 講談社 四六判
厚紙装 上製カバー 二七〇頁 一二〇〇円(本体一一六五円)
装幀・岡村元夫 装画・王朝継ぎ紙研究会 主宰 近藤富枝 書・高野玉兎 地図・磐広人 写真・講談社写真部 江頭徹 川部米雄 藤井徹

§ 源氏物語(写真／物語という旅への誘い／廬山寺 紫式部邸宅址／琵琶湖／高島三尾里／塩津／逢坂関跡／石山寺／武生／京都 東寺／羅生門址／西寺址／朱雀門址／朱雀門址碑／大極殿址／神泉苑／平安神宮／京都御所／夕顔の宿跡／鳥辺野／河原院址／三条宮址／京都文化博物館／東三条院址 閑院内裏址／二条院址／鞍馬寺／大学寮址／嵯峨野 仁和寺／野宮神社／大堰川畔／清涼寺／小野の里／初瀬 椿市／長谷寺／宇治 宇治神社／宇治上神社／平等院／宇治川／八瀬) 解説・虚構としての「源氏物語」鈴木日出男／「源氏物語」の梗概 清水好子

PERFECT WOMEN コレクション 著 監訳 瀬戸内寂聴
訳 河野 潤

一九九〇年(平成二年) 七月三十一日発行 三笠書房 四六判

紙装 二六四頁 一〇〇〇円 装丁 不明

§ パーフェクトウーマン (プロローグ “完全な女” の苦悩のはじまり / 1 心の空洞、混乱 — 共有するジレンマ / 2 がんばりすぎる空虚な女たち / 3 過食症の女 — 大食と嘔吐のあとにくる “征服感” を求めて / 4 母親の愛憎同居 — 娘へのいとしさ・うとましき / 5 鏡の中の “自分の人生” のヒロイン / 6 “女らしき” に嫌悪する心理 / 7 娘と母のたたかい — ガラスの “女王の座” を争って / 8 ほんとうの自分を見出し、自分のための人生を生きるために / 訳者あとがき (瀬戸内寂聴))

The End of Summer Harumi Setouchi

First paperback edition, 1993 KODANSHA International Ltd., Paperback Page1~151 \$8.00 1200円(本体1165円)
Japan's Women Writers Jacket illustration: Masuo Ikeda
§ The Overflowing/ The End of Summer/ Lingering Affection/ Spring Chill/ The Pheasant

※一九八九年発行 布装あり

源氏物語卷一 瀬戸内寂聴訳

一九九六年 (平成八年) 二月一日発行 講談社 B5判
厚紙装 箱 二九六頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山
清文 装丁・辻村益朗 装画・石踊達哉
§ 源氏物語卷一 (口絵 / 桐壺 / 帚木 / 空蟬 / 夕顔 / 若紫 / 源氏のしおり 〈訳者解説〉 / 参考図録 / 語句解釈)

源氏物語卷二 瀬戸内寂聴訳

一九九七年 (平成九年) 二月二五日発行 講談社 B5判
厚紙装 箱 オビ 二九八頁 二五二四円 校閲・八寫正治
小山清文 装丁・辻村益朗 装画・石踊達哉

§ 源氏物語卷二 (口絵 / 末摘花 / 紅葉賀 / 花宴 / 葵 / 賢木 / 花散里 / 源氏のしおり 〈訳者解説〉 / 参考図録 / 語句解釈)

源氏物語卷三 瀬戸内寂聴訳

一九九七年 (平成九年) 四月二五日発行 講談社 B5判
厚紙装 箱 三一七頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山
清文 装丁・辻村益朗 装画・石踊達哉

§ 源氏物語卷三 (口絵 / 須磨 / 明石 / 濡標 / 蓬生 / 関屋 / 絵合 / 松風 / 源氏のしおり 〈訳者解説〉 / 参考図録 / 語句解釈)

源氏物語卷四 瀬戸内寂聴訳

一九九七年 (平成九年) 五月二四日発行 講談社 B5判
厚紙装 オビ 二八七頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山
清文 装画・石踊達哉 装丁・辻村益朗

§ 源氏物語卷四 (口絵 / 薄雲 / 朝顔 / 乙女 / 玉鬘 / 初音 / 胡蝶 / 源氏のしおり 〈訳者解説〉 / 参考図録 / 語句解釈)

源氏物語卷五 瀬戸内寂聴訳

一九九七年 (平成九年) 七月一〇日発行 講談社 B5判
厚紙装 箱 三二三頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山
清文 装丁・辻村益朗 装画・石踊達哉

§ 源氏物語卷五 (口絵 / 萤 / 常夏 / 篝火 / 野分 / 行幸 / 藤袴 / 真木柱 / 梅枝 / 藤裏葉 / 源氏のしおり 〈訳者解説〉 / 参考

図録／語句解釈)

源氏物語巻六 瀬戸内寂聴訳

一九九七年(平成九年)九月三日発行 講談社 B5判 厚紙装 箱 オビ 二八九頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山清文 装画・石踊達哉 装丁・辻村益朗
 §源氏物語巻六(口絵／若菜上／若葉下／源氏のしおり／訳者解説)／参考図録／語句解釈)

源氏物語巻七 瀬戸内寂聴訳

一九九七年(平成九年)一〇月三〇日発行 講談社 B5判 厚紙装 箱 オビ 三四七頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山清文 装画・石踊達哉 箱「紅梅」八〇号S 表紙「青海波」四曲半双 口絵「横笛」四〇号P 「幻」一〇〇号変 「夕霧」四〇号F 装丁・辻村益朗
 §源氏物語巻七(口絵／柏木／横笛／鈴虫／夕霧／御法／幻／雲隠／勾宮／紅梅／源氏のしおり／訳者解説)／参考図録／語句解釈)

源氏物語巻八 瀬戸内寂聴訳

一九九七年(平成九年)一二月一九日発行 講談社 B5判 厚紙装 箱 オビ 三三三頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山清文 装画・石踊達哉 装丁・辻村益朗
 §源氏物語巻八(口絵／竹河／橋姫／椎本／総角／源氏のしおり／訳者解説)／参考図録／語句解釈)

源氏物語巻九 瀬戸内寂聴訳

一九九八年(平成一〇年)二月二七日発行 講談社 B5判

厚紙装 箱 二八一頁 二五二四円 校閲 八寫正治 小山清文 装丁・辻村益朗 装画・石踊達哉

§源氏物語巻九(口絵／早蕨／宿木／東屋／源氏のしおり／訳者解説)／参考図録／語句解釈)

源氏物語巻十 瀬戸内寂聴訳

一九九八年(平成一〇年)四月二日発行 講談社 B5判 厚紙装 箱 オビ 二四四頁 二五二四円 校閲 八寫正治 装画・石踊達哉 装丁・辻村益朗

§源氏物語巻十(口絵／浮舟／蜻蛉／手習／夢浮橋／源氏のしおり／訳者解説)／参考図録／語句解釈)

寂聴今昔物語

一九九九年(平成一一年)三月二〇日発行 中央公論新社 四六判 厚紙装 上製カバー オビ 二九四頁 本体一六〇円＋税 装丁、装画・横尾忠則 DTP・オフィス・トイ
 §寂聴今昔物語(時平左大臣が、国経大納言の妻を奪う／蕪の子／典薬寮に行つて病氣を治す女／橘季通女の部屋から逃げる／橘則光が人を切り殺す／相撲取の妹の怪力／碁の名人寛蓮を負かした女／安倍清明、忠行の弟子になる／悪霊となつた人妻の害を除く／登照が朱雀門の倒れるのを占う／会坂の盲人蟬丸／玄象という琵琶を鬼が取る／伊勢の御息所、延喜の御屏風に和歌を詠む／死んだ妻と構つた男／浮気な夫／不思議な女盗賊／釈迦の妻ヤソーダラ妃／一角仙人、女を背負う／髪起長者／国王の難題を逃れた夫婦／目連尊者の弟／茸を食べて舞う尼たち／金峰山の別当は毒茸に酔わなかつ

た／とんだ鯛の荒巻／近江守の娘が浄蔵大徳に通じた／大江
山で妻を寝とられた男／蛇になって男を追った女／亀の恩返
し／夜光の玉を盗んだ男／秦の始皇帝の時、印度の僧が渡来
した／後漢の明帝の時、仏教が伝来した／玄奘三蔵、天竺に
渡る／達磨が渡来した／六の宮の夫の出家／染殿の後、鬼に
犯される／僧伽羅と羅刹／迦旃延と美女／国王、針で刺され
る／目をえぐられた太子／平貞盛児千を取る／消え失せたも
の／捨てた先妻のもとに戻った男／大和の箸墓／四国の辺地
で馬にされた僧／平中をだました女／あとがき